

第10期スマートクルーズアカデミーレポート



平成28年9月10日~13日

<金沢=境港=釜山=福岡3泊4日at コスタ・ビクトリア>

主催:大阪大学国際公共政策研究科赤井研究室

共同企画:全国クルーズ活性化会議

クルーズ・アカデミーの概要

第10期 スマート・クルーズ・アカデミー (2016年第3弾) ＜金沢＝境港＝釜山＝福岡＞ 3泊4日 at コスタ・ビクトリア＞

【コスタ・ビクトリア】



- 乗客定員：2,394人
- 就航：1996年
(2013年改装)
- 総トン数：75,000トン
- 全長：253m
- 全幅：32m
- 巡航速度：22ノット

【行程】

No.	日時	寄港地
1日目	9/10(土)	金沢
2日目	9/11(日)	境港
3日目	9/12(月)	釜山(韓国)
4日目	9/13(火)	福岡

スマートクルーズアカデミーの趣旨

★学生の論理的思考向上の場

船上でしか味わえない、見渡す限り何も無く、それぞれが集中してやりたいことに打ち込める洋上の素晴らしい環境で、国際関係や地域発展についての社会課題について議論し、船内、寄港地にて国際感覚のより一段の向上を図る。

★クルーズ振興に向けた新たなマーケットニーズ構築の場

大学生がクルーズを体験し、若い世代からの視点で、将来のクルーズマーケットを熟成する。体験を踏まえて、日本の港湾戦略、寄港地の分析、日本の観光のあり方を議論し、自由に事業・政策提案する。

■ INDEX

第1部<乗船前と乗船時の感想>	1
(1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ	1
(2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った!	2
(3) 申し込み後、乗船日前夜の感想	4
(4) クルーズ客船が目の前に見えた!大きさに驚きの連続。期待感が膨ら む	6
(5) 乗船直後の感動	7
第2部<クルーズ船>	10
(1) 船内施設(ハード面)の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)	10
(2) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフ ェ・ハンバーガーバー(11F)・ピザバー(12F)・サービス・オペレーショ ン(キャビン清掃、ホテルレセプションサービス、カジノ、その他船内 の各部門オペレーション)	12
(3) 船内SHOW,エンターテイメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プ ロダクションショー、落語)	15
(4) 船内スポーツ・体験施設・内容の感想(ジャクジー、プール、ジムほか スポーツActivity)・体験型イベント(ダンスPARTY) など)	17
第3部 <各港での対応及び魅力>	20
(1) 乗船港(金沢)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応の感 想など)	20
(2) 境港港の感想(乗船下船時対応の感想、寄港地の魅力)	21

(3) 釜山港の感想（乗船下船時対応の感想、港地の魅力）	24
(4) 下船港(博多)での感想（港・ターミナルの施設評価、下船時対応の感想など）	26
第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー>	29
(1) 学生提言：事前準備から、発表までの感想、大学間交流としての意義	29
(2) 学生提言「テーマ：より良い大学教育に向けて」についての感想(各班の発表を聞いての感想)	31
(3) クルーズ活性化会議プレゼン・パネル討論の感想	33
(4) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治体との交流会、フォーマルナイト、夜の交流会など) についての感想と今後の要望	36
第5部 <地域活性化・クルーズ振興>	39
(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想（国・自治体政策のあり方など）	39
(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにむけての若い世代からの視点)	42
(3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想、上記の項目に該当しなかった部分への感想など	45

<注>

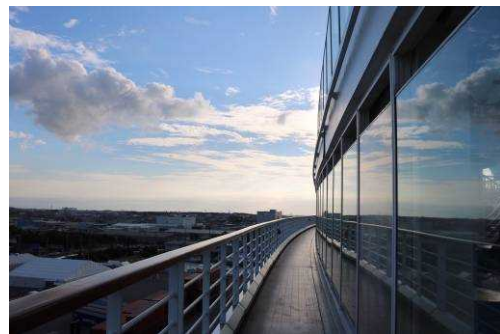
各項における本文冒頭の番号は、番号ごと同一の学生の意見・感想となります。また、学生の属性は以下のとおりとなっております。

No.	属性	備考
1	大阪大学(4年女性)	(クルーズ3回目：第4期ボイジャー、第7期ダイヤモンド)
2	大阪大学(4年女性)	(初クルーズ)
3	大阪大学(4年女性)	(クルーズ3回目：第4期ボイジャー、第7期ダイヤモンド)
4	大阪大学(4年男性)	(クルーズ3回目：第4期ボイジャー、第7期ダイヤモンド)
5	大阪大学(4年女性)	(初クルーズ)
6	大阪大学(4年男性)	(クルーズ3回目：第4期ボイジャー、第7期ダイヤモンド)
7	大阪大学(4年男性)	(初クルーズ)
8	大阪大学(4年男性)	(クルーズ3回目：第4期ボイジャー、第7期ダイヤモンド)
9	甲南大学(4年女性)	(クルーズ2回目：第7期ダイヤモンド)
10	甲南大学(4年女性)	(クルーズ2回目：第8期マリナー)
11	甲南大学(4年女性)	(初クルーズ)
12	甲南大学(4年女性)	(クルーズ3回目：第7期ダイヤモンド、第8期マリナー)
13	甲南大学(4年女性)	(初クルーズ)
14	甲南大学(4年女性)	(初クルーズ)
15	甲南大学(4年女性)	(クルーズ2回目：第7期ダイヤモンド)

第1部 <乗船前と乗船時の感想>

(1) 概要を知る前のクルーズへのイメージ

1. イタリア船ということで、ピザやパスタといった料理への期待と、ショーがこれまでに乗ってきた船とどう違うのか気になります。
2. 値段や格式がとても高いと想像する。一般市民にはなかなか手の届かない娯楽。そのように捉えているからこそ、興味は高い。夜間に寄港地から寄港地へと移動するというスタイルが魅力的だ。
3. 過去2回のクルーズで、船内のアクティビティが充実しており一日中楽しめること、様々な寄港地を一度に楽しめること、費用が思ったよりも安いことなど、クルーズ船の魅力を存分に知ったため今回も期待をしている。今回はイタリアの船ということで、陽気で明るい雰囲気だと期待している。
4. “クルーズに乗る”という話を赤井先生から伺って、またクルーズに乗れるとわくわくしている。今回日程以外の詳しい概要を聞くことなく、二つ返事でいくことを決めた。前回のクルーズが楽しかったから、今回も同じように楽しいだらうとの思いからである。
5. クルーズ船に乗る機会は滅多にないことだろうから、是非参加したいけれど、セレブでもない一般の学生である自分がクルーズ船に乗って、しっかり楽しめるのだろうか。乗り物酔いが激しいが、船に乗って酔わないだろうか。
6. 就職活動も終わったばかりだったので、今までの船に比べて楽しもうという気持ち強い。クルーズ会社については詳しくないので、コスタがどのような会社なのかは知らなかったものの、今までのクルーズ会社との違いについて楽しみにしている。
7. 客を運ぶ船としてのイメージが強く、客室は簡素な作りでフェリーを少し大きくした客船というイメージ。中での食事はビュッフェ形式で店員さんが運んでくるものはなく、自分たちで取りに行くもの。アクティビティもなく、デッキにはくつろげるリクライニングチェアやテーブルが並んでいる感じを想像していた。
8. イタリア船ということで、かつて乗船したボイジャー、ダイヤモンドプリンセスとの雰囲気の違いを堪能したいと考えていた。また、船内で行われるイベントにも積極的に参加し、五感でクルーズを感じたいと考えていた。



9. 去年、スマートクルーズに参加したが緊張しすぎて体調を崩したのと、諸事情で寄港地に寄ることができなかつたので十分楽しめなかつた。今度こそ楽しもう。イタリアの船ということはおいしいピザとかパスタが食べられるかも。
10. 8月にダイヤモンドプリンセスに乗る予定なので、コスタビクトリアに乗るか迷う。またプリンセスより規模が小さくなるので、満足感が減るのではないかと心配。一方で、イタリアの船なので料理が楽しみ。
11. 初めてのクルージングな上に、クルージングは「大人の豪遊」と思っていたので、ぜひ参加したいと思う。お金のことについても心配は少しあるが、大人になっても経験できないかもしれないのでぜひ参加しよう。
12. これまで乗船した船よりグレードは劣るとの事だったので、どんな船なのか少し不安もあります。また、揺れが大きいのかも気になります。
13. クルーズはお金持ちの社交界のような場所を想像しています。一般の人はクルーズに乗る機会はお金や機会を含めほとんど無いと思っています。お金を持った人たちが乗るものであり、毎日乗船客は豪華な服を装って、とても広い船内と客室で優雅な時間を過ごしていることも考えています。
14. クルーズとはただ大きな船に乗って海を眺めたり、美味しいお料理を食べたりしながら現実から離れた空間でのんびりと過ごすというイメージがある。また、時間があればプールや温泉に入ることが出来るものである。
15. 大変ラグジュアリーで、非日常が味わえるイメージ。普段では手が付けられないような高級な食事が好きなだけ食べることができ、何時でもプールで泳げるイメージがある。プールだけでなく、より美味しいご飯に期待だ！



(2) 事前のクルーズ説明会他でクルーズの概要を知った！

1. 毎晩テーマのあるパーティが予定されているところが今までと違うと思います。寄港地は日本海沿岸の港を中心としており、初めて乗る人にも不安が小さいのではないかな。
2. 今回のクルーズの寄港地は出港地である金沢以外は行ったことのない場所。旅行好きだが、車の運転のできない私にとってなかなか足を運びにくい場所も含まれており、ぜひこの機会に行きたい。
3. ホワイトパーティやカーニバルナイトなど、乗客が一緒になって楽しめる夜のパーティイベントが盛りだくさんでとてもわくわくしている。特に、仮面をつ

けてのカーニバルナイトは、イタリアらしさを感じられるのではないかと楽しみにしている。

4. イタリア船・4日間の日程・寄港地の情報を聞いた。しかし、それによってクルーズ船に対するイメージは変わらなかった。前回のクルーズと同じように、船内での豪華な食事や様々なアクティビティを楽しめるというイメージである。
5. 想像しているよりも更に立派な船。船上のイタリアというコンセプトだから、船内も明るく乗務員もフレンドリーだろうから楽しみ。毎日パーティがあって、ドレスコードもあるなんて、想像通りセレブの世界だ。
6. 今まで乗った船はアメリカとイギリスの船で、やはりそれぞれの国の特徴の様なものがあつたので今回もそういった船特有の雰囲気であつたり、どうなっているかを楽しみにしている。また、アカデミーの部分に関しても今までとは違い面識のない人とのやり取りが中心であつたので不安がある。
7. プールやジム、カジノなどが備え付けられているとは思っていなかったの、クルーズの概要を知ってから期待はかなり高くなっている。朝はビュッフェで優雅に朝食をとり、昼間は寄港地をのんびり観光、夕方以降は船内の施設プール等を使って時間を過ごす。ディナーもビュッフェ形式だけど美味しい料理がいっぱい食べられるだろう。また外国籍の客もたくさん乗っており、船内では基本的に英語での会話であるのかな。
8. 初めて日本海側を寄港するクルーズ、今まで訪れた港と観光地・見送りなどの面で比較してみよう。
9. 去年行けなかった釜山に行ける！キムチ！ホワイトナイトってどんな感じだろう。白いズボンとかスカートとかないよ。どうしよう。コスタのHP見たけど部屋にどんなアメニティがあるかよくわからないな…
10. 乗った瞬間からイタリアを感じられるとお伺いしたので、楽しみ。ダイヤモンドプリンセスでは寄らなかった寄港地にも行けるので楽しみ。
11. クルージングは富裕層がラグジュアリーな船内で楽しむのものかな。船内はもちろんのこと豪華、誰でも乗船でき途中で乗下船できるのでクルーズ目的はもちろんのこと、交通手段の一つとしても便利。
12. プールの設備や、ショー、カジノもあるみたいなので、ダイヤモンドプリンセスとあまり変わらないのかな。今回は船旅の期間が短いので、十分に楽しめるか不安。また毎日どこかの港に寄港するので、船内のアクティビティを体験する時間があるのかも気になる。



13. クルーズの概要を知った後はコスタはカジュアル船であるということで、少し親しみを持つことができます。しかしクルーズ経験がある人から、毎日エンターテインメントが充実していて、非現実的だと聞いたので、期待はとて大きいです。
14. スケジュールを見て、ホワイトパーティー（ウェルカムパーティー）やフォーマルナイト、また寄港地での観光など様々な予定が詰まっていて充実する日々になると期待。更に、大阪大学の学生とのプレゼンがあると知り、学びの多いクルーズになるとも期待。
15. イタリアと聞いて、贅沢なイメージから、ピザやパスタなどのカジュアルかつ、美味しいご飯に期待が変化。船での雰囲気も、ラグジュアリーなイメージから、陽気で楽しいイメージへ変化した。前よりも安価かつハイクオリティなクルーズを期待。

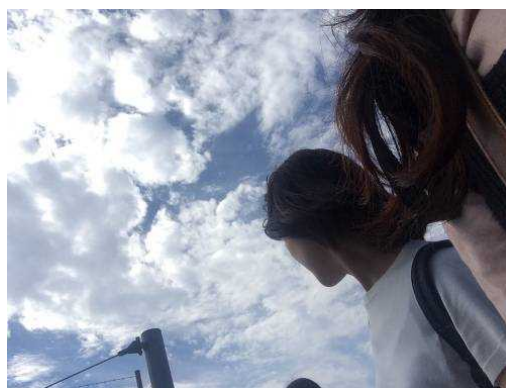


(3) 申し込み後、乗船日前夜の感想

1. クルーズでの旅行では基本的に荷物の量を気にしなくていいところが非常に楽であると改めて思う。金沢を始め、プサン以外の寄港地は初めて行くところばかりなので、寄港地をめぐって観光して夜は船で様々なパーティーを楽しもうと思います。
2. 3泊4日のわりには大きい荷物を眺めて、初めての体験に向けて興奮する気持ちと旅行前特有の忘れ物の有無がとても気になってきた。また、クルーズ船の大きさも想像できずにいたので、イメージを膨らませてわくわくした。
3. 上記のような期待をしていたため、パッキングをしながらとてもわくわくしている。出発港が金沢ということで、前日まで富山を観光していたが、クルーズ船でさらに様々な寄港地をめぐることができると思うと非常に楽しみである。
4. 明日からクルーズということで、準備に追われて大変だ。ただ、今回は全員が同じ学年で他大学の人も大勢いるということで、ひろく交流が図れるのではないかと期待を持って、就寝する。
5. 楽しみではない。靴をたくさん持って行かなければならないので、荷物が多くトランクのふたが閉まらない。初めて会う人ばかりだから、人見知りしないように、積極的に話しかけよう。
6. アカデミーの部分で、今までに比べると準備不足な部分が大いいため、うまくいくのかという不安。今までの船に比べてホワイトパーティーなど、パーティ系の催し物が充実しているイメージのため、具体的に船内の雰囲気がどうなるの

か興味がある。

7. 豪華な客船でこれから3泊も過ごせるという期待から、その3泊で何をしたいかについて想像。1日目の船内での夕方は、船内にどんな施設があるのかを探検して、船内の様子を知る。2日目の夜は友人とやったことのないカジノに行っても何個か体験する。3日目は釜山で辛いものをたくさん食べて、クルーズに戻り最終夜をゆっくりデッキで過ごすという計画。
8. 神戸からの乗船が主であったので神戸から遠く離れた金沢からの乗船は新鮮。大阪からアクセスも良く、観光地に恵まれた金沢ならば観光がてら遠くてもここから乗船したいとおもえる。金沢ほどの一大観光地であれば、クルーズと観光の相乗効果を大いに発揮できそうだ。
9. まったく準備をしていないけど大丈夫かな。(前日まで準備してなかった) 他大学の学生とも仲良くなりたいけどできるかなあ。
10. 前回のよう船が沈むのではないかという不安はない。また、前回他大学の学生と仲良くなれたように、今回も阪大の方と仲良くなりたいです。写真もいっぱい撮ります！
11. 海外旅行は留学経験もあって慣れていたが、クルージングは初めてということもあり、何を持っていけばいいのか、何が必要なかがよくわからなくて先生方が作成してくださったプログラムがとても役に立った。
12. すごくわくわくしています！短い分思いっきり楽しみたいです！また、金沢から乗船出来るので、午前中は金沢観光を満喫する予定です！いい天気だといいなあと思います。阪大生とも仲良くなっていい夏の思い出にしたいです。
13. 初めてのクルーズであったため、船の上での生活がどのようなものなのか、パーティーとは何をするのか、など知らないことがたくさんあるため不安もありますが、とても楽しみです。また阪大生との勉強会は、新しい人と出会い、様々なことを知れる機会となるため、刺激を受けることを期待しています。
14. 初めてのクルーズなため、少しの不安があり緊張してるのと同時に新しい経験なので様々な期待が膨らみわくわくしている。また、今まで大阪大学の学生と深く交流したことがないため直接上手く話せるか、仲良くなれるかなどの不安がある。
15. 前回のクルーズと違い、地元から遠く離れた金沢からの乗船であったために金沢観光にも期待。前回よりも、カジュアルな服装で良さそうなので、気軽に過



ごせそうであると思った。美味しいイタリア料理が食べれると胸を躍らせている。

(4) クルーズ客船が目の前に見えた！大きさに驚きの連続。期待感が膨らむ

1. 金沢港に止まっているコスタを遠くから発見しテンションが上がっている。これまでに乗った、プリンセスやボイジャーと比べると大きくはない船だと思いますが、黄色い煙突が特徴的で、中を早く見たい。
2. 閑散とした港に佇む大きな船の迫りに圧倒されている。この大きな船の中で起きるエンターテインメントを楽しみに思う気持ちが大きくなっている。大きな船は揺れないというが、未体験の私にとっては本当に揺れないのか、船酔いしないか気がかり。。
3. クルーズ客船の乗船経験はあったが、港までのシャトルバスから客船が初めて見えたとき、あまりの大きさに驚き声をあげてしまった。乗船の手続きを済ませ客船の全景をカメラに収めようと思ったが、大きすぎたため収まりきらず、改めてスケールの大きさを実感している。
4. クルーズ船を目の前にしたとき、「あー！これぞクルーズ船」と思い、(実際は前回乗った船より小さいようであるが)めっちゃ大きい船やとわくわく。見た目なども前回乗った船とあまり変わりなく思う。
5. これはビルか。地元のイオンと同じくらいの大きさだ。テレビでよく世界のクルーズを特集している番組を見ていたが、それに出てくる船そのままで現実味がない。とてもわくわくする。
6. 今まで乗った船に比べて一回り小さな船のためそれ程の驚きはない。ただ、今までのアカデミーで聞いてきた各港の課題などを鑑みると、コスタのサイズの船ならば様々な港に寄港できると思うので、日本の港向きのサイズなのかなと感じる。
7. シャトルバスの窓から客船の一部が見えている。巨大な建物であると感じ、見えているものが船であると信じられない。岸壁から客船の全貌を眺めた時は、まず「大きいな」と感じている。そして、なぜこんな大きな客船が動くのか、どうしてこんな大きな客船を作れるのだろうか？
8. 低層な港湾施設を抑えて聳える堂々たる姿には、やはり客船は海上の街であると実感。金沢港は周辺に小型船が多く泊まっているので船の大きさが際立って見える。



9. 以前乗った船よりも小さいと聞いていたけど、実際に見てみると大きい。でも救命ボートの数はダイヤモンドプリンセスのほうが多かったかもなあ。
10. ダイヤモンドプリンセスよりも小さい船だと聞いていたので、期待度を下げていたが、意外と大きくてびっくり！黄色い煙突？がかわいい！
11. コスタビクトリア号が思ったより大きくて圧倒されている。自分がこんな船に乗れるのかとわくわく。
12. コスタビクトリアは小さいよと聞いていたので、どんな船なのか不安でしたが、とても大きい船で驚いています。船内がどんな造りになっているのか楽しみで、早く船に乗りたいです！！乗船までの流れもスムーズでした。クレジット登録が最初になかったので、船内で飲み物とか注文するのにどうすれば良いのかわかりません。
13. 想像以上に船が大きくてびっくり。港に着く前から船が見えて、こんなにも大きな船に自分が乗って、境や釜山に行くことができることにとても興奮！
14. 想像していたよりも大きく、初めてめタクシーから見えたとき、港のホテルなどの宿泊施設かと思いき驚いている。また、こんなにも大きな船が海に浮いているのを実際に見て不思議に思う。
15. スケールは想像以上に大きい。前回、神戸のポータルライナーからでは全貌が望めなかったが、今回はタクシーで現場に向かう途中に客船の全貌が認識できたため、スケールを大きく感じたように思う。しかし、いざ前回乗船したダイヤモンドプリンセスと比べるとやや小さいかなあ。

(5) 乗船直後の感動

1. 乗船手続きはとてもスムーズでした。吹き抜けの広場は仮面で飾られていたり、大きく広くはないけれど華やかな印象を受けます。部屋担当のクルーはいつもすぐに対応してくれ、安心感があります。
2. 船員さんは”海の上のイタリア”との代名詞から想像できるような方たちだ。皆、笑顔で乗客を迎え入れており、好感がもてる。しかし、エントランスは狭くエレベーター待ちの渋滞ができていた。
3. クルーの雰囲気は想像していた通り明るい。ベニスのカーニバルの飾りつけをまさにやっているところであり、これからの船旅がとても楽しみ。カードを利用した本人確認がスムーズでよかった。
4. 乗船手続きを終え、記念写真を撮るところにいたクルーさんがきれいで、それ



だけでもうテンションが上がる。荷物検査を終え、中に入ると高級感のある船内が見えて、なつかしい気持ち。その後の船内ツアーを終えた後は、やはり少し前回の船と比べて小さいなという感じ。

5. 思っていたより船員がフレンドリーではない。日本人の船員は愛想があるが、外国人の船員は特にそっけない。船内はホテルみたいに豪華で、船の中にいるとは思えない。
6. 船内のセキュリティは今までの船と同様にしっかりしていると感じる。船員の態度については特段悪いということはなく、個人的にもっと客に対してがつつ来るかと思っていたのでいい意味で期待を裏切られた。
7. 最初に向かったエレベータの作りすら豪華で驚き。階段はどこかの宮殿にあるようなものである。客室に入ると2人では少し狭く感じたが、ベッドは綺麗に整えられており、バスルームも綺麗な印象だ。船員さんはフレンドリーで笑顔が多いという印象。欧米人が多いのかと思ったが、アジア系が多くて驚き。コミュニケーションが取りやすい。
8. 乗船時にクルーが日本語で話しかけてくれた。乗船により急に多国籍な従業員に囲まれると日本人乗客は委縮してしまうと思うので、緊張緩和に良い。
9. クレジットカードの登録しないんだ。去年のクルーズは乗船するまでに時間が記憶があるけど今回はスムーズだったから早かったな。クルーの人が陽気で面白い。
10. 乗った瞬間からイタリアはあまり感じられません。ダイヤモンドプリンセスと比べると廊下の色使いなど明るい雰囲気だな。
11. エレベーターの扉が思ったより早く閉まって挟まれそう。船員さんは特にアジア系が多かったがとてもフレンドリーで気さくに話しかけてくれた。
12. 客室の廊下が真っ青だったので、ポップな印象。また、カジノやシアターは少し小さく感じる。ビーチサイドは広々としていて、気持ちよさそう。また、11階の外のデッキは、港や海が見えていいな。11階のテラスからの眺めもとてもよい！
13. 船内に入った瞬間イタリアを感じれると聞いていたので、とても期待していましたが、船員さんがアジア系の人が多かったということもあり、あまりイタリアを感じられていません。
14. 自分がイメージしていた船内は殺風景なものだと思っていたが、実際は赤を基調としたデザインであり、ヨーロッパの雰囲気を感じる。また、船員さんの態



度は想像していた通りで、とても明るく笑顔で挨拶してくださり親切である。

15. 船内は、想像よりもコンパクト。11階のプールデッキに、大きいモニターがなかったため少し物足りない。船員さんの態度は、最も前回との違いを感じている。前回よりも、業務優先かつカジュアルな接客だと感じる。あまり、乗客と接しようとする風習がないのでは。

第2部 <クルーズ船>

(1) 船内施設(ハード面)の感想(船内施設・施設のレイアウトなど)

1. 以前に乗った船よりも大きさが小さい分、船内の移動が楽だったことが非常によかったです。シャワールームがカーテンで仕切られていたため、水が外に漏れないようとても気を遣ったことが印象的です。劇場の座席について、二階席からは舞台が見えにくいように感じました。
2. シアターやカジノからは、船内に、なんて豪華な施設があるのかと驚いた。客室の配置に関しては、エリアによって壁の色もしくはドアの色を変える等されていると、自分の現在地が分かりやすくてよりスムーズに目的地にたどり着ける、と思った。
3. 全体的に豪華で華やかな内装で、乗っているだけで気分が上がった。施設のつくりがシンプルで、どこに何があるかを容易に覚えられたため迷わなかった。エレベーターの数が多く、待ち時間が短かったため、快適に船内を移動できた。
4. クルーズ船としては、楽しめるだけの最低限の種類の設備が整っていると感じた。今回のような、終日航海日がないような場合にはこのような船でもいいと思う。しかしながら、ひとつひとつの設備が小さく、物足りなさを感じるため、終日航海日がある日程であれば、飽きてしまう。
5. いま船尾側か船首側かどちらにいいのか分からなくなることがしばしばあり、よく上る階段を間違えて部屋まで遠いということがあった。船内装飾は華やかで、高級感があったが、イタリアの印象は薄かった。トイレは水洗だが、使用済みの紙を流してはいけないタイプだったので、生理的に不快だった。
6. ハード面について特に不満は無かった。レジャー施設が有料だったり、自由に楽しめる部分が少ないかなと最初は感じたものの、寄港回数が多かったため結局すべてを回りきることができない程だった。レイアウトについても道に迷うこともなく、分かりやすかった。
7. 廊下が時に狭く感じる。船員さんが掃除のために常に廊下にいるので、すれ違う時に少し苦勞した。バスルームのトイレの流すボタンが、便器の蓋を閉じないと押せないのが、そこまで気にならないが少し面倒だった。雨が降った時デッキの芝生の部分に水がたまるので、歩いた時にかなり靴が濡れてしまった。
8. 客船らしいラグジュアリーな雰囲気を感じられた。ディスコが閑散と

していたが、日本人の客層に人気とは思えないので閉鎖しておいても問題ないのでは。

9. 階ごとに名前(オテロやカルメンなど)がついているのがユニークで面白かった。その一方で、部屋がところどころ壊れていた。(私が宿泊していた部屋はトイレのドアが壊れていた。他にもトイレの水が流れなかったりした。)

10. 廊下の色合いなど明るくて良いと思いました。仮面パーティー用に、吹き抜けの部分がデコレーションされていて、テンションが上がりました。テレビを見ようとしたら韓国語が流れてきたのには驚きました。あと、ドライヤーが引き出しの中に固定されているため使いにくかったです。



11. シアターやカジノなど施設が多すぎて何回か迷った。エレベーターから自分の客室に行く際に距離が遠すぎて少し不便だと感じた。レストラン? 朝ごはんを食べる場所が最後だけ夕食のときと同じ会場だったが、毎朝そこだとさらによかった。

12. コスタは毎日どこかの港に寄港します。リピーターからの意見としては、一日落ちていて船内を満喫出来る、終日航海日が欲しかったと思いました。今回のコスタは、短期間で本当に多くの観光地を回ることが出来、とてもいい旅になりましたが、船内の思い出が正直あまりありません。昼間は寄港地で楽しむ日が多いので、新規顧客獲得のために、終日航海日を無くすのであれば、夜は遅くまで船内の施設が開いていると、昼は寄港地・夜は船内で思い出が作れてよかったですと思いました。後は、細かい事ですが、エレベーターが来るのが遅い印象があります。また、ディナーをするレストランは、慣れるまで何度か迷いました。客室に関しては、トイレが流れない時間帯があったので、そういう時は事前に知らせてほしいです。水が流れなくて困りました。また客室にスリッパが無かったので、ずっと靴を履かなければならず不便に感じました。ドライヤーも、盗難防止のために取り外し出来ない形でクローゼットの引き出しに入っていました。とても使いにくかったので、鏡の横に備え付けてほしいなと思いました。また、毎日ダンスをしているエンタランスの吹き抜けの部分は、ダンサーの踊りが見にくいので、真ん中にステージ等があれば、どこにいてもダンサーが見えて、楽しめるのではないかと思います。


13. 船内施設はバーやエンターテイメントを行う場など、一つ一つはとても大きいわけではないですが、船とは思えないほど、施設の数があり充実していました。ですが、船内にいてもイタリア!!と感ずることはあまりありませんでした。

14. 船室に関して述べると、シャワールームがカーテンでしか遮ることが出来ない

ことに不満を感じた。洗面所の床を濡らさないように注意してシャワーを浴びてもどうしても濡れてしまって、最終的にはバスタオルを敷いていた。

15. 非常に良かった。中央のエレベーターから見える景色が良く、ベニスパーティーの装飾も目面しい感じで面白かった。後はカジュアルな雰囲気にあわせた、白と黄色を基調とした外観に、コストらしさを感じた。また、ディスコの赤い部屋や、ショーのホールも、高級な雰囲気があり、非常に心地よかった。

(2) 船内サービス(ソフト)の感想(食事内容(レストラン・ルーム・カフェ・ハンバーガーバー(11F)・ピザバー(12F)・サービス・オペレーション(キャビン清掃、ホテルレセプションサービス、カジノ、その他船内の各部門オペレーション))

1. ビュッフェでの朝食、おやつはいつでも種類が豊富で充実していました。目の前で調理してくれるサービスもあり、飽きませんでした。ディナーも豊富なメニューから楽しんで選ぶことができ、味も満足です。特にやはりピザとパスタはおいしかったです。キャビンの掃除がとても頻繁に感じました。一日一回でも十分だと思いました。無料で飲食できるエリアを、キャビンに近い6階あたりにも一つ設けてほしいと思いました。カジノのディーラーの方がとても気さくで、参加しやすい雰囲気を出してくださっていると感じました。
- 
2. キャビンは毎回同じ人が清掃をしてくれ、トラブルがあった際にもすぐに対応していただけたので、安心感があつた。タオル等に関しても使用済みのものはすぐに好感されており、清潔感のある空間で過ごすことができた。
 3. カフェのクルーはよく歌いながら仕事をしていてこちらまでとても楽しい気分になった。レストランのウェイターは、料理を運んでくるタイミングが絶妙で、また、離席の際は料理が冷めないよう配慮してくれていたりしてよかった。キャビンの清掃は隅々まで行き届いており、また、タオルで動物を作っておいてくれたりして嬉しかった。
 4. ソフト面に関しては、とてもハイクオリティに感じた。特に軽食に関しては温かい食事を食べられることが多く、また味の方も申し分なかった。また、カジノなども毎日21時30分から初心者向けの説明会が行われているなど、とても楽しむ敷居が低くてよかったと思う。
 5. 食事はまあまあだった。肉・魚料理は一般的なおいしさだったが、パスタやラザニアはとてもおいしかった。朝食や軽食を摂ったビュッフェでは、飲み物(ジ

ューズ系)の種類が少なく、水しかない時もあった。残念だった。室内の清掃はいつも細かいところ(アクセサリ等)まできちんと整頓されていて有難かった。タオルでつくった象を置いてくれている等、ちょっとした遊び心も嬉しかった。最終日の料金精算が大変混み合い、日本語ができるスタッフも少なかった。トラブルが多かった。会議室で会議をしているのに隣で大きな音で工事をするのはあまりにも配慮が足りないと感じた。

6. 食事などについても不満は少なかったものの、ハンバーガーの空いている時間と寄港地観光の時間がかみ合わず、あまり堪能できないなど、船内設備の全てを楽しむのに障害が多かった印象がある。個人的にサラダのメニューが毎日代わり映えしないことが唯一残念だった。



7. 食事に関しては基本的に満足しているが、水が美味しくなく、その水を使ったコーヒーも置いていたので、コーヒーの味も美味しくなかった、水が美味しければ言うことはないと思う。客室の清掃は、その回数も多く常に部屋が綺麗に保たれていた。初めてカジノをしたので、最初わからず説明をしてくれなかつと求めたが、説明してくれなかつたのは残念だった。
8. 常時利用できる飲食サービスが多くないので増やしてほしい。特に、プールサイドのハンバーガー屋は乗客が寄港地で下船している時間帯にしか空いておらず、乗船後くつろごうとしても利用できないのは不便に感じた。
9. 食べ物は美味しいものと美味しくないものの差が激しかった。ジュースやカクテルの種類が豊富で良かった。その一方でレタスなどの生鮮食品の水分が多かったことと。チーズか中にはいっている四角いパスタの味がいまひとつであったことが残念だった。また、サービス料の支払いを最終日に行ったが、トラブルが多く発生していて時間がかかって今のが残念。なるべくカードでの支払いを勧めるようにしたほうがいいと思う。
10. ご飯は全体的においしかったです。ハンバーガーのお店が早い時間に閉まっていたので、寄港地を観光してから、食べに行こうと思っても食べられず残念でした。また、飲み物を飲む場所も少し限られていたような気がして、お水を飲みたくても飲む場所を探すのが大変でした。カジノはカードゲームやホッケーなどもあり、楽しむことができました。
11. 初日のハンバーガーサービスを毎日行ってほしかった。トイレが1回故障したが、すぐに直してくれたのでありがたかった。カジノは初心者のためにルール説明があつたら参加しやすかつたと思つた。

12. 全体的に利用できる時間が限られているように思いました。ビーチサイドのハンバーガーバーでポテトを食べたくても17時までしか空いておらず、乗船日しか利用できませんでした。また、プールやカジノ、バーも全体的に夜は早く閉まってしまうような気がします。下船の際、クレジットカードの登録をしていなかったため、支払いに行きましたが、とても混んでいて、長時間待たされました。機械の台数もクルーも不足しているように思います。インターポーティングをすると、利用者全員が下船するわけではないので、クルーも他の仕事に回さないといけないとは思いますが、もう少し人数を確保してほしいと思いました。また、クルーに関しても、愛想のあるクルーと無いクルーが二極化しているように思います。バーでは、少しイラついた表情をされ、不快に感じました。
13. 常にピザやパスタなどを食べることができたことがよかったです。ただ美味しい水を補充する場所がレストランの階だけでなく、客室の階にもあれば、もっと便利でした。清掃の方は部屋のトイレに問題が起こったときに、嫌な顔せずに直しに来てくれたことがとても印象的でした。その後も、トイレのことを気にしてくれていて好印象です。
14. 5Fのレストランでは自分の食べたいものを選ぶのが斬新で楽しかった。どの料理も美味しくとても満足できた。また、カフェに関してもたくさん料理やスイーツ、フルーツが置いてありとても美味しく楽しめた。カジノエリアを初めて見たときはとても広くてカジノの本場を感じた。また、初めてカジノを試みたいと思った。
15. ハンバーガーやピザは種類が豊富で満足できた。しかしアイスクリームが有料であったため少し残念だった。カフェのケーキの質がダイヤモンドプリンセスと比べると少しよくなり、満足できなかった。カジノは、だれでも参加しやすい雰囲気があり、非常に良かった。ゲーム設備があり、若者同士ではしゃぐ良い時間を過ごせた。また、朝のbuffetでは、ホットミルクがあり、非常に好感が持てた。しかし、タップウォーターが異常にまずいのは良くなかった。



(3) 船内SHOW, エンターテイメントの感想(船内鑑賞イベント全般、プロダクシ

ョンショー、落語)

1. ショーは初日のマジックショーしか見るできませんでした。観客参加型の陽気なショーで、面白かったです。
2. Showの質には差があるように感じた。歌や楽器等音楽の披露は良かったが、いくつかみたなかにはそこまで満足度のたかくないものもある。特にクルーズ船にはこのようなShowに対して目の肥えた方が客層として多いことも考えると、より残念だった。
3. 夜に劇場で行われるショーはすべて観たが、どれも非常に楽しかった。特に、オペラの曲を披露していた時はイタリアを感じられて満足だった。時たま観客を巻き込んでの演出があり、楽しめた。下船の日のディナーでは、全員で音楽に合わせて練り歩いたり、ダンスをしたのが思い出に残っている。
4. 船内のショーを見ることができたのは、時間の関係上、初日の一回のみであったが、船の雰囲気にあった、客をいじり、周りを盛り上げるよいショーであったと感じた。全日航海日がない分、船内のエンターテインメントを楽しむ時間はなかった。
5. 劇場でのショーは全体的にB級というか、少しずつ惜しかった。2日目のダンスと歌は、日本人にあまり馴染みのないクラブミュージックが中心だったので、特に楽しみにくかった。3日目のイタリアの音楽や歌は、有名なものが多くとても楽しめた。せっかく立派な劇場があるので、もっとレベルの高いものを見れば良かったと思う。
6. 船内のショーについては時間の都合もあり全てを見たわけではないが、全体的に楽しめた。食後に毎晩パーティがあったためか食膳にショーがあったりと船内を飽きないようなタイムスケジュールになっていたのがよかった。
7. SHOWは1日目のパントマイム的なSHOWを1時間しか見ていません。そのSHOWは面白かったが少し地味に感じた。やっているパントマイムが自分にもできそう。それでも客を楽しませるとい点では、さすがだなと感じました。SHOWに使われている会場は前の人の頭が重なって少し前が見にくかったのを覚えています。
8. 毎晩何かしらの催しが吹き抜けで行われており、大変雰囲気が良かった。また、高度なスキルが求められるようでもなかったため、気軽に参加できて楽しめた。
9. ショーはダイヤモンドプリンセスの大規模なショーを以前見てしまったため、とてもさびしく見えました。またホールの中の様子を映すテレビが古いのが残



念だなぁと思いました。最終日の夕食の際のダンスパーティはクルーの人と一緒に踊って楽しかったです。ビンゴ大会が気になりましたが有料だったのと景品がどんなものかがわからなかったので参加しませんでした。

10. 1日目と最終日のショーしか見ていませんが、ステージが小さかったため、迫力には欠けたと思います。しかし、1日目のショーでは、観客も巻き込んでショーが進められていたので、お客さんも楽しめたと思います。
11. 日替わりでショーの内容が変わっていて毎日楽しめるようになっていた。初日のマジックショー(ミュージカルショー?)がいまいちだった

12. ショーのクオリティは、あまり満足できませんでした。ダンサーの動きが揃っていなかったり、マジックショーもあまりマジックという感じがしなかったです。しかし、ディナーをしていたレストランでの演出はとてもよかったです。2日目クルーの方はダンスを踊ってくれたり、最終日はみんなで汽車を作ったりダンスをしたりできたのは、とても楽しかったし印象に残りました。




13. ショーは時間がなく、あまり見る事が出来ませんでした。ショーの中でのダンスなどの芸は、キレイで素敵でしたが、一度見たら十分だと感じました。ディナーでのエンターテイメントは乗客も、全クルーも一緒になって楽しみ作っているのがとてもよかったです。
14. ステージでのショーはサーカスを見ているような感じで船内であるとは思えなかった。席もすべて埋まっていて笑いも起こり活気がありとても見ていて楽しめた。照明などの雰囲気も良くて船内であることを忘れるくらいだった。
15. もっとも印象に残ったのは、夜のレストランにて開かれたダンスショーである。最終日のクルー紹介や、乗客を巻き込んだ情熱的なダンスショー、そしてみんなで肩を持ち合って列車をしてから歩くのも非常に愉快で、かつ初めての体験であった。食事中に踊るなど、日本ではあまりない風習で、とても刺激的な夕食であった。また、誕生日を伝えると、祝ってくれるシステムも非常に良いと感じた。今回は伝えるのが遅く、ケーキなどを出すことは不可能であったが、それを挽回するかの様に、クルー2人が、食事に使うナプキンをつかって、簡単なマジックをして、大いに楽しませてくれたので、サプライズ以上にクルーのプロ精神、思いやりを感じることができた。

(4) 船内スポーツ・体験施設・内容の感想（ジャグジー、プール、ジムほかスポーツActivity）・体験型イベント(ダンスPARTY) など)

1. 毎晩吹き抜けの広場でダンスパーティーが催され、見ているだけでも楽しめました。一度中に入ってダンスに参加してみましたが、ダンスした相手にサインをしてもらって、5人のサインを集めて、というシステムを理解することに時間がかかりました。また、ダンスのパートナーをしてくれるクルーの数が、ダンスに参加を希望する乗客に対して明らかに足りず、入っていきづらいイベントであるように感じました。全員でクルーのダンスを見ながら踊るタイプのダンスパーティーでは、ペンライトが配られるなど参加しやすい工夫を感じました。
2. 早朝に風を浴び、入港を眺めながら甲板を走るのは気持ちがよかった。今回、自身はジムやプールを利用しなかったのですが、またクルーズに乗る機会があれば次回はより船内の施設を活用したい。
3. ホワイトパーティでは、全員で生演奏の音楽に合わせてダンスをし、フォーマルナイトの日にはオフィサーとダンスをし、連日とても楽しいダンスパーティーだった。パーティーの会場も部屋も同じ船内でありとても近いので、ヒールを履いていても疲れにくく、また、衣装を変えることも容易にできるので、思う存分パーティーを楽しめた。これはクルーズ船ならではのと思う。ジムやプールが設置されているので、退屈せずに船内を楽しむことができた。
4. ジャグジー・ジムなどは最低限の設備が整っていたが、マシンの種類・ジャグジーの広さてきには大満足できるものとはいえない気がする。また、ダンスなどだれでも参加できるイベントもあったが、クルーズに行きなれていない人にとっては参加するにはいささかハードルが高かった。
5. プール・ジムは、期待以上でも以下でもなく、一般的なものだったので、通常通り楽しめた。社交ダンスを習いたかったが、いまいちどういふうに参加してよいのか分からず、見るだけで終わってしまったのは自分自身の反省点。
6. 体験型イベントについて毎日何かしらのパーティーがあり、楽しめた。ホワイトパーティやマスクなど今まで体験したことがないようなことが出来たのがよかった。ただ、イベントの殆どがダンス関係だったためそういうたぐいのものが苦手な人も楽しめる夜があればもっといいのではないかと思う。
7. 9月にもなると寒いのでジャグジーは暖かくてよかった。また数もたくさんあって赤の他人と一緒にいることはなかったので嬉しかった。ダンスPARTYは非常に



楽しかった。船員さんが見本になって踊ってくれるので、ダンスがわからない自分にも見よう見まねで踊れたので、嬉しかった。ただそのお手本となるダンスが見つらかったので、お手本を踊る人がみやすい位置(一段高いところにいるとなお良かったかなと思う。)

8. プールがやや手狭と感じたが、屋外プールでの遊泳には厳しいこの季節の運航には過度にプールに場所を割かなったという点で適していると思う。ジョギング用トラックが見当たらなかったのも整備してもよいのでは。
9. アクティビティー(ジャグジーやジムなど)が開いている時間が短かったのが残念だった。日中は出かけて、夕方はパーティに参加していたためすべてのアクティビティを体験できなかった。ホッケーなどのゲームがあったのはカジノをしない人間にとってとても良かった。
10. プールは入っていませんが、見ている感じでは少し狭いかなと思いました。ディナーの際に、ダンスが始まったり、みんなで列になって動いたことは特別な思い出になりました。一つだけ言うと、前菜を食べたあとにダンスが始まったので、お腹がすきました、笑
11. ジムがもっと広かったら使いやすかった。プール、ジャグジーは外と中両方にあって天気関係なく楽しめるようになっていた。ダンスpartyはウエイター、乗客みんなで楽しめたのがよかった。
12. ダンスパーティーは吹き抜けの所で行われていましたが、狭い空間のため、そこまで人が集まっていたわけではないけど、ダンサーが見えなくて少し残念な感じがしました。また、ダンスがハイクオリティでついていけませんでした。(動きが難しい) ジャグジー・プール・ジムは時間が無くて利用できませんでした。
13. 水着や、ジャージを持ってきていなかったため、プールなどの施設を活用することができなかったのを後悔しています。体験型イベントとして、ダンスに参加しました。乗客もクルーも一緒になって場を盛り上げていて、エネルギーなパーティー、でした。
14. 船上は風があり、少し寒かったのでジャグジーはあったかくて気持ちよかった。5Fのレストランでの食事中のイベントもとても斬新で面白いし身体の動くままに踊って騒いでとても楽しかった。また、3日目の夜のダンスパーティーに参加したときは時間を忘れるぐらい夢中になってフリについていくのに必死で本当に楽しかった。
15. スポーツでは、ジムを使用することがなかったが、代わりにプール、ジャグジ

ーを使用することができた。ジャグジーは温度も快適で、非常に良かった。しかし、個人的に残念だったのが、プールおよびジャグジーの開設時間だ。諸事情はあるにせよ、以前に乗ったダイヤモンドプリンセスでは遅くまで開いていたため、その差にショックを受けた。日中や夕飯時はバタバタしているため、ゆっくりできる23時から1時くらいまで開いていればより快適にプールやジャグジーを使用できた。バスケットボールフィールドは立地もよく、裸足でもプレイできるくらい整備されていたので、思う存分楽しむことができた。また、クルーの1人がバスケットに誘ってくれた事もあり本来であれば使用しなかったであろうバスケットフィールドを楽しむことができた。

第3部 <各港での対応及び魅力>

(1) 乗船港(金沢)での感想(港・ターミナルの施設評価、乗船時対応の感想など)

1. 乗船手続きはとてもスムーズで分かりやすいと感じました。船までの距離も近く、わくわくした気持ちのまま船に乗ることができました

2. 乗船手続き所から乗船口まで、徒歩でも容易な距離であるのにバスで一分以内の移動をした点が、なぜだか理解できなかった。サービスなのかもしれないが、わずらわしさしか感じなかった。

(補足⇒港湾エリアには物流施設があり徒歩は危険なため)



3. 列に並ぶ前に必要書類の記入漏れ等のチェックをする人を配置していたため、スムーズに人が流れていた。見送りのセレモニーがとても華やかであり、また、みなと会館の屋上や岸壁で一般の見送りの方がたくさん手や旗を振っていてとても嬉しかった。

4. 港自体は、建物も含め、少し古びている印象を受けた。屋上の大きな「金沢港」の文字の前で写真をとったが、前に室外機が何台もあり、見栄えが悪かった。若者がこのようなどこにいるかを表す場所の前でよく写真を取り、そのままSNSにアップすることを考えれば、もっと見せ方もあるのではないかと思う。

5. 乗船までにくぐる関門が多く、チェックは1度では駄目なのかと思った。しかし乗るまで屋外で長時間待たされることがなかったのはよかった。お見送りに多くの人に来て手を振ってくれているのはとても感動した。ジャズバンドの音楽を聞きながら船が出航するのも素敵な演出だと感じた。

6. 乗船時の手続きがスムーズだったのがよかった。クルーズ船は大勢が乗る船なので手続きでターミナルがパンクしがちなイメージがあったがとてもスムーズなのがよかった。ターミナルそのものはあまり大きくなかったものの、やはり慣れているのかなという印象だった。

7. 問題なかった。初日のパーティーのための服をスーツケースにしまっており、すぐ着替えるためにスーツケースを持ち運ぶのが面倒だった。スーツケースを預けてしまった場合、どれくらいで客室に届くのか教えてもらえると大きな荷物を持ち運ばなくて良いので助かります。

8. 乗船時に、ターミナルから岸壁まで出ていたバスに注目したい。通常、貨物などの輸送で車が走行していることと思われる岸壁は、客船の寄港でその機能を

停止する場合が多い。しかし、今回のように安全性を確保していれば機能を完全に停止しなくても客船の受け入れが可能になり、受け入れ側の負担（機会損失）が軽減されるのではないかと感じた。

9. 港の付近に簡易のや売店(屋台やお土産屋さんなど)があったらもっと良いのに中と思いました。
10. 仮設のテントだったので利用しにくいのかな、と思っていましたが、スタッフの方が対応に慣れていたので、スムーズに手続きを行うことができました。ターミナルの中にお土産を買う場所や食べ物を売っているお店があれば、もっと良いと思います。
11. 荷物を預けるとき、必要書類提出のときがスムーズだった。港付近にコンビニなどがあれば便利だと感じた。乗船時、クルーが気さくな雰囲気よかった。
12. 金沢は、周りに観光資源が沢山あったので、とても満足できました。ターミナルでは経路が複雑に感じましたが、係の方が多く配置されていて、しっかり誘導してくれるので、特に迷うこともなくスムーズに乗船出来ました。
13. 金沢港は周りに建物がなかったため、船全体をどこからでも見る事ができたのが良かったです。
14. 乗船するとき、手荷物のX線検査や金属探知機のゲートを通ったりするのがまるで空港のようでとてもわくわくした。船員の方はひとりずつ丁寧に挨拶をしてくださってこっちまで笑顔になった。
15. 金沢では滞在時間を取れなかったため、東茶屋街の外観はとても風情があり良いとおもった。もっと金沢を楽しむために、下調べ等をするべきだったと後悔した。金沢のターミナルは、神戸とは違い、船の全貌が思いっきり見渡せたため、気持ちが良かった。また、夏で暑い日であったため、案内役のコスタクルーズのクルーがちゃんと日傘を差して立っているのが、印象として良かった。これで、クルーの顔が疲れていたり、劣悪な環境化で働いていたら、クルーズ感が激減していただろう。乗船時の対応は決して愛想が良いわけではないが、カードやスマホを駆使したスマートかつスピーディな手続きで快適だと感じた。しかし、ターミナル自体はとても古く、あまり気持ちが高まる事がなかった。もうちょっとターミナル内が明るくても良い。



(2) 境港港の感想（乗船下船時対応の感想、寄港地の魅力）

1. 観光地までの距離が遠く感じました。でも観光エリアが凝縮していて、一日で

楽しむにはちょうどいいと思いました。地元高校生の吹奏楽演奏にはとても感動し、また来たいと思いました。

2. 出港時の市民の方々を巻き込んだ送り出しが印象的だった。年間を通しての寄港船が少ないことやターミナルといったハード面の整備は他港と比較しての弱点なのかもしれないが、建築物としてのターミナルがないからこそ可能な温かい出迎え、見送りを受け、とても快適な港だった。
3. 下船の際にはいくつかテントが出たり、見送りの際には地元中学のブラスバンド部が演奏で見送ってくれたりとおもてなしがよかった。寄港地としては、メインの観光地である水木しげるロードまで近く、また、シャトルバスが運行されているためよかった。すこし足を延ばせば島根県も観光できることもよかった。境港の職員の方が丁寧に美保神社周辺を案内してくださってとてもうれしかった。
4. 境港は徒歩で観光地を周ることができ、帰りはシャトルバスという理想的な寄港地であったと思う。また、出航のときも見送りの吹奏楽部の学生とも交流を図れて楽しかった。ただ、日本の出国港としては物足りなさを感じる。もっと、日本を離れるということで「ああ日本、惜しいなあ」と思わせられる演出ができれば、印象に残る港になると思う。
5. 船を降りてから食事処に行くまでの道が臭く、歩道も雑草が生い茂って歩きにくかったのであまり良い環境ではなかった。お出迎えはそれほどではなかったが、お見送りはやはり多くの人に来て、演奏付きだったので非常に嬉しく思った。何もない閑散としている点もある意味魅力ではあるが、せつかく水木しげるを推すのであれば、是非港も妖怪一色にしてほしい。水木しげるロード周辺は観光地として確立されているので楽しめた。
6. 鬼太郎ロードに行ったが、クルーズの寄港時間で周るのにちょうどいい観光時間だったので大変楽しめた。また、出港時の見送りに大勢の地元の方が来てくださり、地元高校の演奏も合わせとても良かったと思う。
7. 妖怪祭り(?)がちょうど開催されていて、お祭りの雰囲気がすごく楽しかった。道沿いにある妖怪の銅像や、魚の銅像を見て回ることができて良かった。境駅の電車が妖怪の絵でデコレーションされていて珍しい電車も見れて嬉しかった。お祭りがなくなると、楽しむものがなくなるのではないかと感じる。高校生のブラスバンドの演奏で見送られて出港するイベントも楽しかった。



8. コンパクトで見どころのある観光地であった。徒歩圏内に集中・港を有する街に街歩きできる観光地がある、の二点が寄港地観光の適地と感じた。また、見送りが感動的でまた来たいと感じた。見送りは最後にして最大の印象付けになると思うので可能な限り継続してリピート獲得につなげてほしい。
9. 境港は中学の修学旅行で行ったが、その時よりも活気があるように思えた。お祭りが開催されていてカニ汁やイカなどを食べ歩きできたのが良かった。また、境港で去年のクルーズアカデミーで一緒した自治体の方にお会いできて良かった。出航の際、地元の方が手を振って見送ってくださりとても感動した。
10. 自治体の方が、猫娘になって歓迎して下さったことが印象に残っています。水木しげるロードに行くまでの道に魚のオブジェがあり、楽しみながら歩くことができました。水木しげるロードでは、100を超える妖怪のブロンズ像が並んでいるため、自分の好きな妖怪を探すのも楽しいのではないかと思います。
11. 港からすぐ観光地に着いたので、たくさん境港を楽しめた。水木しげるロードは老若男女が楽しめるので誰にでもおススメできる観光地だと思う。出港時の地元の方の見送りはとても悲しくなって涙で潤んだ。
12. 境港では、シャトルバスにお金が必要なことが、少し不満に思いました。

お昼にいただいた海鮮丼は値段もリーズナブルで美味しかったので、とても満足出来ました。水木しげるロードは妖怪のブロンズ像から記念館、お土産屋さんなどが集まっていますとても見やすかったです。寄港地に寄った際に、どこを見たらいいのかわからない事がよくありましたが、境港では水木しげるロードに行けば間違いのないんだと分かったので、観光しやすかったです。また、そこまでボリュームがあるわけでは無かったので、境港を満喫して船で少しゆっくりできる時間が取れ、ちょうど良いと思いました。船で行く時は、一か所に観光資源が集中していると助かるなと思いました。
13. 境港で印象的だったのが、出港セレモニーです。地域の学生が楽器を演奏してくれたり、たくさんの方が集まって、手を振ってお見送りをしてくれたことにとても感動し、涙がでそうなほどうれしかったです。
14. 境港は下船したときとても広いと感じた。しかし、「ようこそ、境港」などと書いたアーチが置いてあったり、私たちが歓迎して下さったため嬉しく感じた。また、境港はとてもどかな街並みでありみんなと一緒に話しながら歩くのはとても楽しくて幸せなひとときであった。
15. 境港では、非常に寄港地の魅力を感じることができた。下船時はお茶があった

りと日本ならではなおもてなしがあつて好感がもてた。乗船時は、購入した飲料を捨てる必要があり、出国、入国の際の船内の持ち込みにかかる説明を聞きそびれたことを後悔すると同時に、説明がわかりやすくあればよいと感じた。歩いてお店まで行ったので、遠く感じた。シャトルバスや、レンタルサイクルなどがあれば楽だとおもった。水木ロードでは細かい演出が見受けられ、写真の撮りがいがあった。また、ゲゲゲの鬼太郎のイベントがかぶっていたため、満足度が100点であった。船内に温泉施設がなかったため、境港に温泉があったことも、良い点であった。

(3) 釜山港の感想（乗船下船時対応の感想、港地の魅力）

1. ターミナルのきれいさにおどろきました。お土産物店も充実していました。離岸するときは夜で、デッキから非常にきれいな夜景を見ることができました。橋の下をくぐる瞬間もクルーズに乗っていてテンションが上がる一つですので、経験することが出来てよかったです
2. 市街地まで無料のシャトルバスが運行されているのはよかったです。外国であるにもかかわらず、入国審査に時間がかからず、スムーズにターミナル内を通り抜けられたのは驚きであり、飛行機と違ったクルーズの魅力であると気づいた。
3. ターミナルがとてもきれいだった。入国の手続きが非常に簡素でスムーズに人を流していたためよかったです。ただ、パスポートのコピーにスタンプを押していたため、パスポートに入国の記録が残らず少し残念だった。港から街の中心部までの距離が近く、無料のシャトルバスが出ていたためよかったです。コンパクトな町であり、時間内に十分楽しむことができた。
4. 釜山はターミナルは素晴らしかった。Wifiは遅かったものの、きれいで洗練されたターミナルに驚いた。また、夜景もとてもきれいで、深く印象に残っている。夜景などは結果論かもしれないが、対外的にどうみせれば、人々の印象に残るかをわかっていると思う。これだけ夜景がきれいなら、もっとターミナルで告知などすればよいと思う。
5. 結局何を船に持ち込んでよいのか分からなかったもので、迂闊にお土産を購入することができなかった。しっかり説明が欲しいと思った。釜山は日本の都会と特に変わらない風景だったがとにかく車の運転が荒く驚いた。本場の韓国料理は辛く、量もふんだんで満足できた。文化村は遠くから見る分には良い風景だが、一歩中に入ると混沌としていた。これも貴重な経験。帰りのバス乗り場がいまいち分



かりにくかったうえに、バスが時間より早く出ているなどのハプニングもあった。

6. 唯一港をつなぐバスが無料で、他と足並みをそろえないのかなと疑問に感じた。ただ、やはり言葉や通貨になれていないこともあったので大変ありがたかった。寄港地としては唯一の海外ということで異文化に触れることが出来たことが最大の魅力だと思う。
7. 前日に手荷物検査を済ませているので、韓国入国もスムーズに行き、楽だった。ただ入国審査までの建物が遠い。入国後はバスに乗って市内へ向かったがその道中の道が混んでおり、少し時間をロスしたのが残念だった。露店がたくさん並ぶ国際市場は見ていて面白かった。日本にはないようなものが売っていた。(カタツムリとか)
8. 大変立派なターミナルで混雑なく下船でき、快適。ただ、入国審査が簡素すぎて船会社の乗船セキュリティーにまかせっきりなのは不安もある。
9. 韓国料理は美味しかったが、市場に行った際、おばちゃんが凍った魚を地面に叩きつけて解凍していたり、道に野菜を広げていたりしていたので、衛生環境の悪さに驚いた。ターミナルにコンビニがあり、そこで最後にお土産や食べ物を買って足せたことが良かった。
10. 船からターミナルまでが少し遠いと思いました。入国審査は前回よりもかなり早く終わったので、あまり待たずに入国することができました。ターミナルはきれいで、ちょっとしたお土産なども買うことができて良かったです。釜山では、シャトルバスを降りたら、歩いてレストランや、いろいろなショップ、市場に行けるのが魅力だと思います。
11. 入国審査が思ったよりスムーズだった。個人的な意見として、パスポート原本に韓国の入出国のスタンプがほしかった。韓国観光でメインの街並みだけではなく、港付近の魚市場？や屋台などコアなところが見えて楽しかった。
12. 韓国は船から降りてから、ターミナルの中をかなり歩いたように感じましたが、一本道であり且つムービングウォークもあったので、しんどくはありませんでした。下船はあっさり終わってこれでいいのかなと少し不安に思うほどでした。乗船の時は荷物の検査がありましたが、ずっと行けたのでよかったです。釜山は日本のクルーズでよく寄港する港であると思いますが、私は特に何回も来たいと思えるような魅力を見つけられていなかったため、少し飽きてしまったような気がします。
13. 釜山の港は大きく施設が整っていたので、とても快適に過ごすことができました。



た。今回行った日本の港では、船にのる際に必ず一度は外に出る必要がありましたが、釜山港では一度施設に入ると、雨風にさらされることなく乗船できるのが良かったです。

14. 釜山港もまるで空港のようでクルーズから降りたようには思わなかった。換金所の従業員の方は日本語も上手で伝わりやすかったことに加え、手際が良くすぐに換金してくださった。
15. 釜山では、ターミナルが非常に大きく、まるで空港のようだった。館内も、トイレなど全てが綺麗に整備されていて、手続きもスピーディだった。船までの距離はとても長く感じた。韓国では船での入国が栄えていると思った。また、送迎バスもあり、数も多く非常に助かった。寄港地としての魅力は、食と物価だった。食事は本当に美味しく、韓国料理を思う存分楽しむことができ、非常に満足だった。ショッピングもお店が多く、物価が安い。地下鉄も通っていたので、観光も手軽にできる。また、一見栄えて切っているようで、海辺に近づくと、ローカルな魚市場があり、魅力が多様に存在していた。是非また行きたいと思うことができた。



(4) 下船港(博多)での感想(港・ターミナルの施設評価、下船時対応の感想など)

1. 私は博多駅に向かいたかったのですが、シャトルバスと路線バスがどこから出ているのか少しわかりづらいと思いました。年間で多くの大型客船が寄港するだけあって、施設も充実し対応も効率的であると感じました。
2. テントだとは感じさせないような、大きく、清潔感のある空間に圧倒された。ターミナルからバス乗り場が少し離れており、移動がより短距離であれば快適だと感じた。博多港には年間を通じて多くの寄港があるのだからクルーズ船乗客向けのシャトルバスがあるととても良いと思った。
3. スペースが広く、また、レーンをいくつも用意していたため思ったよりスムーズに入国できた。下船後のバス停で行列ができていたものの、バスが頻繁に出ていたためストレスを感じなかった。天井にテントを張った建物とは思えないくらいしっかりとした建物でびっくりした。



4. 博多は大きい港で、クルーズに慣れているということもあり、下船もスムーズに進んだ。ただその分どこかシステムティックで無機質に感じた。せっかく海外から日本の港に帰ってくる、もしくは韓国の方からすればはじめての日本の港なので、もっと日本らしさを思わせる出迎えをしてもよいのではないかと思う。
5. 乗務員が皆で見送ってくれたのは嬉しかった。劇場ショーの出演者もいて驚いた。下船でのトラブルもなく、スムーズに移動できた。バス停も混雑していたうえ、バス車内も混んだので、下船後博多や天神に向かうバスがもう少し多くあるとよいと感じた。
6. 博多港は流石というべきか、対応になれているなと感じた。また、ターミナルについても降りる乗客全員が入り切れるほどの大きさと、下船対応もスムーズでよかった。また、港から他の場所へのアクセスもよく、様々な方面に行くバスが多く揃っていたのがよかった。
7. 下船時の対応は、特に問題は感じなかった。船員さんの見送りもあり、悪くなかった。堺港に比べると、歓迎度はあまり感じられなかった。ただ、下船地点から博多へ向かうバスに大量の客が大きなスーツケースを持って入るので、バスへの乗り降りが少し面倒だった。
8. バス乗り場まで若干距離があり、不便。ターミナルが大きく、混雑もしなかった。しかし、大型船来航時には、ターミナルの収容能力を把握し、超過する場合には航空機のような一等船室の客の優先下船などで混雑を回避してみてもよいかと。
9. 税関や入国審査がスムーズだったので待たずに帰れてよかった。ただ、暑い中ターミナルからバス停までが荷物を持って歩いたのが大変だった。あと、市民バスにキャリーケースを積み込むのがすこし大変だった。
10. スタッフの方々が対応に慣れていたので、スムーズに進むことができました。自治体の方が、羽田にはたくさんのクルーズ船が来るため、市内がバスで混雑すると仰っていましたが、実際に市内に行ってみて、バスがたくさんあるという印象を受けました。
11. 境港と比べ、地元の方との交流がなかった。港の建物が新しく、きれいですぐしやすいと思う。入国審査、関税審査もスムーズでよかった。
12. 博多港の下船はスムーズに降りられました。手荷物を持って下船をしたので、特に待たされることもありませんでした。博多港はポートターミナルからバス



乗り場まで屋外を歩いて行かなければなりません。10分も歩きませんでした、快晴だったため暑かった印象があります。また、もし雨が降った場合、荷物を運びながら歩くのは、いやだなと感じました。博多港では市内までのバスが渋滞を起こしてしまうと伺いました。実際は、バス乗り場で待機時間がありましたが、バスによる渋滞はそこまで感じませんでした。交通手段がバス以外にもあれば、もう少し人の流れが分散するのではないかと思います。

13. 下船時にたくさんのクルーの方が、お見送りをするために出口付近に来てくれていたことが、印象的でした。クルーの方がお客さんに丁寧に笑顔で手を振り続けていて、一般客の方もとてもうれしそうに、笑顔で下船されていました。博多港は入国審査もスムーズに進んで、バス停も遠くなかったため快適に過ごせました。



14. 博多港国際ターミナルは良く寄港地として利用されるためか、とても広くて綺麗だという印象を受けた。また、下船するときスーツケースを当たり前のように持って降ろして下さってとても親切だった。

15. ターミナルが非常に大きく、バス停も近くて良かった。

第4部 <船上講義：スマートクルーズアカデミー>

(1) 学生提言：事前準備から、発表までの感想、大学間交流としての意義

1. 準備期間が短い中で班員と議論する場を設けることが難しかったです。班内での議論はもちろん、他班に考えてもらう時間ももう少しと取ればより充実したものになったのではないかと思います。限られた時間の中で全員の協力があったからこそ充実したアカデミーの時間になったと思います。大学間で授業料やキャンパス事情が全く異なり、議論に深みが出たと思います。
2. 面識のない人々とグループになり、テーマ決めから発表準備をするのは、それぞれの考え方などが分かりにくく困難に感じることもあった。しかし、教育という大きなことを扱う上で、自身らとは背景、環境の違う学生と共同作業できたことは大いに役立った。
3. なかなか顔を合わせての打ち合わせができなかったが、SNSを活用して議論を交わすことができた。大学生の私たちに身近なテーマで発表を行ったが、国立と私立など様々な違いがある甲南大学の学生と一緒に議論を行ったことで違う視点で考えられた。
4. 事前にプレゼンテーションを作るのは非常に良い。なぜなら、その人たちと面と向かって話したことはなくても、クルーズが始まってから、その人たちをきっかけに話の輪を広げていくことが可能であるからである。発表自体も普段かわりのない学生との交流で新しい知見なども得られ、異なる大学間での交流は非常に有益である。
5. 事前準備の時間がとにかく少なく感じた。加えてプレゼンテーションを授業やゼミであまり経験していなかったため、何をどこまで準備しなければならないのかも分からず慌てた。実際に会わず、LINEだけで打ち合わせするには限界があると思った。同じ班になったことをきっかけに他大学の学生と仲良くなることができた点は良かった。自分のプレゼン経験の無さを痛感した。
6. 今回は事前に顔合わせすることもできず、事前準備がしづらかった。また、発表方法についてもディスカッションを中心に据えるといった形式の統一が大変だった。ただ、こうした場面でもないと違うゼミ・違う大学の人と共同で何かをつくりあげる機会は得られないので、大変貴重な経験だった。
7. 私は赤井ゼミ生ではないので、どのように発表するのか全くイメージすることができなかったが、同じ班の赤井ゼミの学生に助けってもらって準備することが



できた。また、今回の学生提言はクルーズに関するものとは全く関係なかった
ので、これで良かったのかと疑問に感じています。学生にとっては、テーマと
して大学の意義について考える良い機会となったが、港湾関係者の方にとって
良いものであったのか疑問です。そして、その点についてあまり学生と社会人
で意見を交わすことがなかったため、社会人の方の意見も聞きつつ、学生は学
生でクルーズに関する事前学習ができ、それに関する学生目線の発表ができ
ると良いなと思います。

8. 準備期間が短かったということもあり、スカイプやラインなどIT技術を駆使して
会議を行った。音声だけでは伝わりにくいこともあり、課題も残るが、将来
普及が進むと思われるテレワークについて考える機会ともなり有意義だった。
9. 今回は班別にテーマを決めていたため、「こんな問題があるのか」「こういう
取り組みがあるのか」という新たな発見があり面白かった。その一方で班ご
とに議論して自分たちの意見を述べるだけになってしまったのもっと話を掘り
下げる時間がほしいなあと思いました。

10. 今回はあまり時間がない中での準備でしたが、無事に発表を終えられ
てよかったです。発表当日は時間がないため、ある班の発表を聞いてから
各班の意見を述べるだけになってしまいましたが、もっとディスカ
ッションをする時間があれば面白
いかなと思いました。



11. スカイプでプレゼンについて会議し、それぞれで役割分担してパワポを制作することで順調に準備を進めることが
できた。班のメンバーを阪大、甲南からそれぞれ混ぜることで普通なら協力
してプレゼンをすることがないメンバーと仲良くすることができた。
12. 今回のアカデミー事前学習では、前もってラインのグループ電話で話し合いの
時間が持てたので、前回と違い良かったと感じました。今回は阪大生がテーマ
を決め、発表の流れを決めてくれました。いつもの提言と異なり、聞くだけで
はなくてみんなで話し合えたりして楽しかったですし、阪大生の引き出しの多
さに、驚きました。
13. 事前準備では、グループ全員で意見を出し合いながらスムーズに話を進めるこ
とができました。大学を混ぜてのグループだったため、そこでも交流をすること
ができ、ディスカッションなどを通して刺激を受けました。
14. 事前準備の段階でグループ通話で話し合いをしたが、顔が見えないため少し話
し辛さを感じた。発表の前夜に初めて集まって話し合ったが少し緊張して発言

が出来なかった。発表の日は朝からずっと緊張していたが、いつも通り自分らしく堂々と出来た。

15. 準備期間が短かったことと、テーマが大きかったことで、あまり発表の準備に力を入れずに終わった。しかし、今回はチームの発表というよりも、学生同士で問題提起に対して、ディスカッションすることが目的だったため、ベストな準備期間だったと考える。今までの学生生活で、発表ごとに、各チームでディスカッションをして意見をまとめるという経験がなかったため、非常に刺激的であった。他大学の人の意見や、他のチームの意見が、非常に多様で、聞いていて驚かされるところもあり、是非このスタイルは活用すべきだとおもった。チームのディスカッションなどを通してより仲が深まったと感じるため、学生交流のきっかけとして、必要不可欠だったと思われる。ただ、より密に関係を築くことを目的とする場合は、準備期間を伸ばしたり、クルーズ前に一度か二度集まる機会を作るべきである。

(2) 学生提言「テーマ：より良い大学教育に向けて」についての感想(各班の発表を聞いての感想)

1. 大学のカリキュラム：日本の大学は学部間の壁が厚すぎると思うので、自分の興味と学部で学べることを見極めてマッチングするための期間があってもいいと思いました。就活：これから求められる能力と採用方法というよりは、企業の雇用形態等のスタイルの変化に合わせた採用方法に変えていくべきであると思いました。大学の授業：就職のための大学生活というのはさみしいと感じました。インセンティブとして就職を出すことは確かに効果的だと思いますが、大学はあくまで学問的な興味を深める場所であってほしいと思います。
2. 各班の発表からこれまで知りえなかったことを吸収した。自身の班は全員が交代で発表をしたが、よりスムーズにするには二人もしくは一人が発表担当になればよかったのだと気づくことができた。
3. どの班も、短い準備期間にも関わらずよく練り上げられていると感じた。身近なテーマだったため、他の学生が普段どのようなことを考えているかを知ることができ興味深かった。プレゼンテーションを聞いた後にディスカッションをするという流れで行ったが、事前準備でなかなか顔を合わせての議論ができなかったため、この場で活発な意見交換をすることができてよかった。

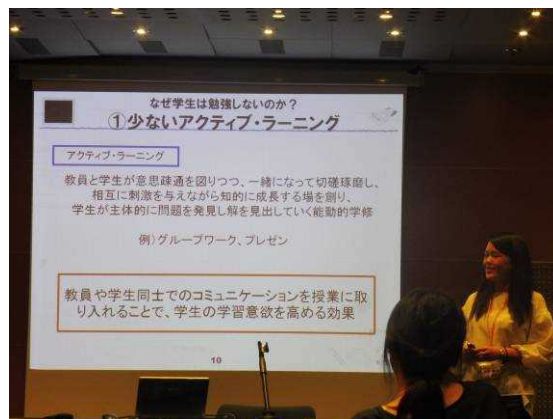


4. 全般的に短い時間の中でよく考えられた提言であったと思う。4つの班が大学教育に関して、それぞれ異なる時間軸で話しており、それぞれの提言を生かすことができれば、大学教育そのものの抜本的な改革ができると思う。しかしながら、安易な海外比較などもみられ、わが国の教育現場の詳細を見直し、何が原因かを見極める必要がある。
5. 結局どのような学習環境を大学が整えても、勉強するしないは学生本人の意思次第である。また、大学教授の仕事は授業をすることではなく研究することだと、教授が開き直っている限り、提言にあったようなプレゼンや討論を主にした授業はできないと思った。
6. 班の発表を聞いたのちに、それぞれの班が意見を発表するという形式だったが、様々な意見があったので形式としては間違っていなかったと思う。ただ、テーマが決定した後に発表形式を決めたので、ディスカッションしづらいテーマもあり、そこが反省だった。
7. 各班の意見を聞き感じたことは、学生自身がどのように学生生活を送るのかを自ら模索しつつ、大学生活を送ることの重要であるということ。つまり大学の意義を学生自らで考えつつ、大学卒業後のなりたい自分像に近づくべく、大学生活を送れるような大学を取りまく制度にすべきである。私たちの班のテーマ就職活動の観点からすると、就職活動における新卒学生のプレミアムはないべきであるが、それを学生が意識することも意味のないことであると考えられる。新卒プレミアムの中身は、新卒以外の既卒を新卒市場から追い出すことにあると思われる。既卒でも、能力のあると判断された人は既卒として雇われるであろう。企業が求めるのは、能力のある人、自ら進んで主体的に物事を考え、行動できる人材であるので、新卒プレミアムを設定している企業側は、効率性の観点から教育のしやすい人材を獲得できるが、社会が提供する就職活動に何も考えずに参加するものを排除することはできない。また学生側は新卒プレミアムを横目に就職活動に惑わされず、自らの目標に向かって大学でやるべきことを行い能力を身につけ就職することも可能である。
8. 身近なテーマということもあり、自分の経験に落とし込んで地に足がついた概論ができ、有意義なものになったのではないかと思う。
9. 身近な話題でしたが、実際に調べたり発表を聞くと、知らない部分やあまり理解できていなかったことが多かったのが今回のアカデミーで考え直すきっかけ



になったと思います。

10. 大学教育、就活、奨学金などに関するテーマで、身近な話題であったため話し合いやすかったと思います。日本と海外の大学の制度の違いなどを知るきっかけにもなり、勉強になりました。
11. 短い間にも関わらずどの班もクオリティが高かった。どの班も私たちが関係する問題を提示していたので、ディスカッションの時に具体的に考えることができた。
12. 同じテーマでしたが、各班とも着眼点が違って面白かったです。プレゼンの最後に話し合いの議題を出すという形でしたが、そのような経験は今までに無く、自分たちが投げかけている議題をうまく伝えられなかった点が反省点です。もう少しストーリーをまとめて話し合いのテーマに繋がられるような流れを作るべきだったと思いました。勉強になりました。
13. 各班の発表を聞いて、勉強になることがたくさんありました。発表の内容もそうですが、話し方やまとめかたなども、影響を受けました。
14. どの班もしっかり現状を調べていてスライドも発表も分かりやすかった。各班のグループワークで話し合った結論の発表ではそれぞれの班で考え方が違ってとても学びの多いものだった。グループワークでの話し合いではたくさんの意見が出て刺激もあってとても楽しかった。
15. 各班の発表を聞いて、大学のあり方について、考えさせられた。アメリカ式の大学制度と、日本式大学制度では、根本的な違いがあることを知った。ただ日本の大学制度やカリキュラム、ならびに新卒制度を批判するのではなく、他国と比較することで、それらのメリット、デメリットが明白になり、分かりやすかった。個人的には、いまの日本の会社のOJT制度には、新卒採用が必要であると考えます。大学では即戦力となる技術を養うだけでなく、様々な経験を通して個人のポテンシャルを高め、それらを会社に入ってから活用し、より成長していくという流れを悪いとは思わない。もちろん、デメリットもあるかもしれないが、メリットも充分にあると思った。



(3) クルーズ活性化会議プレゼン・パネル討論の感想

1. 大型客船受け入れの規模が様々な各港の方々のお話を聞くことができる貴重な機会でした。港同士の協力関係について、自治体規模では自身の港を…という

意識が強いとお話がお話が印象的です。受け入れ回数が多い港ほどお出迎え、お見送りセレモニーを地域を巻き込んで実施されており、満足度が高いというのも意外なことでした。それぞれの地理的条件を活かしながら、日本発着クルーズがより一層魅力的で満足度が高いものに進化していくことが楽しみです。

2. 状況、立場の異なる6つの港の抱える課題、現状を勉強することができた。また、それらから国がどのようにクルーズ関連の港湾政策に力を注いでいるのか、推測することができた。それが韓国・釜山と違うことも確認できた。
3. 各港がそれぞれの魅力や課題についてプレゼンテーションをした後、赤井先生が要点を絞って全体を類型化し、論点を絞ってパネル討論が行われたので、各港のことも理解しつつ、クルーズ受け入れに関する全体像を把握することができた。自治体の方々が熱い思いを持って取り組んでらっしゃることが伝わってきた。今回で3回目のクルーズであったため、乗客としての視点ももちつつ行政の目線にも立ってクルーズ受け入れについて考えることができてよかった。
4. 実際に港に関わっている実務の方々のご意見を伺えたのは非常に有益であった。また、成長市場であるクルーズに対して、成長市場である分だけ、自治体の方々もいろいろと試行錯誤していらっしゃることが感じられた。
5. 一口に港湾整備といっても、それぞれの港にそれぞれの課題があるのだと知ることができ、とても興味深く話を聞くことができた。しかし、それぞれが課題を克服して、すべての港が博多港のような大きな港になってしまっても、特色が失われてしまって面白くない。個性を残しつつ、どの港も繁栄するというのは、各自治体の取り組みも重要だが、国単位での調整も不可欠だと思った。
6. 港にも様々な立場があり、それぞれで抱えている課題も違ったことが面白かった。また、話の途中でもあったが、それぞれの港はそれぞれの利益の最大化を最優先するので、国益の最大化を目指すのであれば、市町村に任せるよりも、都道府県・国がリーダーシップをとるべきかと思った。
7. 今回、初めてクルーズに参加し、クルーズ活性化会議で各港湾関係者のお話を聞くことで、日本にとってのクルーズの意義などを考えることができた、良い機会になったと思います。クルーズが日本にとって、地方にとって、経済を活性化する上で良い手段になるということ意識することができました。それまではそもそもクルーズということ意識することもなく、日本にもクルーズが寄港しているということ考えたことがありませんでした。その上で、都道府



県の各担当者が地域活性化のためにクルーズの誘致に尽力されていることを知って、自治体関係者だけでなく、地域活性化に関心のある民間企業、学生などたくさんのアクターが協力して、盛り上げていくことができれば良いなと感じた。

8. 二年前に比べ、自治体間で来航数・ノウハウなどに大きな開きが出てきた印象を受けた。
9. 自治体の方プレゼンの設定時間が短かったのに延長していたため少しだらけてしまった気がします。去年はクルーズの誘致が進んでいる港の方が多かったイメージですが、今回はまだ進んでいない自治体の方とも話す機会があったので違いを比較できて面白かったです。博多港の寄港の問い合わせ数の多さに驚きました。
10. 北海道、島根、高知など前回とは違う自治体の方のお話を伺うことができ、これからクルーズに力を入れていく自治体が抱える課題と、すでにクルーズに力を入れている自治体とでは、抱えている課題が違うことや、周りの自治体と協力している自治体、そうでない自治体があって、クルーズに対する取り組み方も様々あるのだなと思いました。
11. 日本各地でのクルーズの誘致について様々な問題や意見を聞くことによって自分の中で比較することができて、わかりやすくおもしろかった。全体でなくて、何人かのグループにわけてローテーションしてもよかったと思う。
12. コスタの社長のプレゼンでは、カーニバルジャパンについて学べて、とてもおもしろかったです。インターポーティングによる乗客のリスク分散の話や、終日航海日がクルーズ側とクルーズ初心者にとってどういうメリットとデメリットがあるのか等、たくさん学べて刺激になりました。また、各港のプレゼンでは、それぞれの課題を学ぶ事が出来ました。8月のダイヤモンドの時に聞けなかった話も聞くことが出来て、よかったです。また、行ったことがある港の話は、自分の体験を思い出しながら聞くことができ、楽しかったです。
13. それぞれの港が持っている問題など、リアルな声が聞けたことがとてもいい機会でした。寄港数が多い港から少ない港まで、それぞれ複雑な問題を抱えていることを知り、今まで以上に港について興味・関心を持つことができました。
14. 各自治体でクルーズを活性化させるための考えを生の声として聞けたことはとても勉強になったし、各港でそれぞれ様々なアピール方法があって興味深かった。また、クルーズ船の数は増えているのにも関わらず、事故の件数は減少し



ているという情報に関して驚いた。

15. 中国でのクルーズ人口が大幅に増加していることに驚きを感じた。また、各自治体ごとに、それぞれの課題やモチベーションがあり、違いが明白にあることに驚いた。

(4) スマートクルーズアカデミー内容全般について(学生提言大会、自治体との交流会、フォーマルナイト、夜の交流会など)についての感想と今後の要望

1. 阪大からの参加者が少なかったこともあり、今回は特に他大学の学生との交流を深めることができました。特にダンスやカジノの楽しみ方が新鮮で、一緒にクルーズアカデミーに参加することができてよかったと思いました。自治体の方とも、少人数の近い距離で砕けた話をさせてもらえる機会を頂き、各自治体について少し詳しくなることができました。毎晩パーティがあって、全員で参加して楽しむことが出来たことが一番良かったと思います。今回は特に、港の受け入れ態勢に注目しながら寄港地を見ていました。そんな風に、様々な面からクルーズを分析し、今までよりも多方面からクルーズについて考える機会を与えるようなアカデミーの内容にすれば、発見が多くなるのではないかと思います。
2. アカデミックな面も充実しながら同時に、他の乗客と同じように船内・船外での時間を楽しむことができ、大変濃密な日々を過ごすことができた。より多くの時間、自治体の方々と意見交換する時間があればよかったと思う。
3. クルーズ客船の中という普段とは違う環境で意見交換や交流をすることで、すぐに打ち解けることができ、充実した議論を行うことができた。それぞれのプログラムはとても充実していたのだが、自治体の方との交流が少なかったため、自治体の方を交えたグループワーク等ができることにより有意義な交流ができるのではないかと感じた。
4. クルーズ全体を通して、非常に有益であったと思う。様々な体験や他大学・自治体の方との交流、またそれらが生み出すシナジーとして、普段のゼミ活動だけでは得られない新たな知見を得ることができ、教育として大きな影響を持つと思う。
5. せっかく港湾に携わる自治体の方が来ているので、学生提言の内容もクルーズや港湾に関係する事柄が良かったのではないかとと思う。学生提言は準備期間も



発表時間も短く、クルーズのおまけの印象が強かったので、時間をもっととるか、学生提言をなしにして、自治体の方との討議の時間を増やせばよいと思う。

6. 特に港の方からさまざまな意見を聞いたことが大変面白かった。クルーズの大きなメリットの一つとして今まで行ったことのない場所に行ける、ということが挙げられると思うので、整備の遅れている港の巻き返しや誘致の先進事例があれば知りたいと思う。

7. 自治体の方とお話しする機会が2日目の夜にあり、そこで話しやすい雰囲気になったので、1日目に一緒にご飯を食べてお酒を飲んで中を深めることができ、良いなと感じました。学習面に関して言えば、日本の港湾関係者だけでなく、韓国の港湾関係者との交流があれば、他国でのクルーズの誘致、港湾整備などに関



して、日本と比較することができて、面白かったと思います。今後、海外の寄港地に行く時はその寄港地の港湾関係者と交流することができれば面白いと思います。

8. 自治体の発表を受け、自治体が抱えるクルーズへの喫緊の行政課題（クルーズ誘致のためには、おもてなしボランティアの不足について、など）に対する提言を学生で考えても面白いのでは。
9. 他大学の学生や自治体の方とも交流できるのかクルーズアカデミーの良いところだなあと 생각합니다。今回は滞在期間が短かったのですべての自治体の方と話す機会が少なかったですが、カジノやダンスを一緒に楽しめたのは面白かったです。あと、できたら普段見ることのできないクルーさんの仕事の裏側（クルーさんが住んでいる部屋の様子や普段は入れない場所）についても学びたいとおもった。
10. 学生提言大会については、もう少し準備の時間があればよかったかなと思います。自治体との交流については、ディナーの後に少しお話ができたくらいで、今回はあまりできなかったかなと思います。ディナーの際に学生だけでなく、自治体の方も交えたらもっと交流できていたのかなと思います。フォーマルナイトについては、クルーの方とのダンスがメインだったと思いますが、それだと人数に制限があるため、みんなが参加できるタイプの方がよいと思いました。
11. たくさんイベントがあった上にクルーズ初参加だったので、もうちょっと日にちを増やして一つ一つのイベント(自治体との交流など)をもっと濃いものにしてもいいと思う。毎日が楽しい上にイベントがてんこ盛りだったので、追い

つくのに必死でした。

12. 毎回アカデミーに参加すると、夜にバーで自治体の方とお酒を飲む機会を与えていただきます。その時に、とても交流が深まるので、いい機会になったなと実感します。アカデミーの魅力は他大学の方や自治体の方と交流出来るところにあると思うので、一緒にお酒を飲んだり食事をしたりして交流を測れる機会を作ってもらえることはありがたいなと思います。コスタでは残念ながら自治体の方と一緒に寄港地を回る機会はありませんでしたが、ダイヤモンドの時の宮崎のように、自治体の方と一緒に視察できると、より良いアカデミーになるのではないかなと思います。

13. 学生同士では学生提言会を通して、他大学の意見であったり、発表の仕方など学ぶ事が多かったです。また自治体の方とは、夜の交流会を通して話をする場を作っていただいたことで、仕事のことであったり、社会人の考え方などを知ることが出来、よい場となったため、今後も続けていただきたいです。



14. 今回、学生提言大会が自分にとってこんなにも学びのあるものになるとは思っていなかった。初めは何の知識もないまま大阪大学の学生がチームを引っ張って行ってくれ、本番の発表までに自分自身の気持ちを高めて必死についていき、グループワークでは考えを素直に伝えることが出来たし、それに関して自分の成長を感じることが出来た。また、最終日の夜が一番思い出に残っている。というのも、大阪大学の学生と一番深く交流できたからである。クルーズ最後の夜であったこともあり、とにかく楽しもうという気持ちが大きく思いっきり楽しんだし、たくさん笑い合いはしゃいでとても楽しかった。初めてワルツを踊ったり、スロットをしたり、間近でカジノを見て楽しんだり、初めての多い夜だった。それまで交流のなかった阪大の学生とも仲良くなり、とても充実した夜だった。

15. 今回は、阪大生、並びに自治体の方々と交流する機会が多かった。まず、初めのホワイトパーティーでは全員が服装を統一させることで、一体感や統一感を覚え、気軽に話をする事ができた。自治体の方々と個々にお酒を交えながら話す機会もあり、自治体の方々の仕事の話、また、家庭の話など、前回のクルーズアカデミーとは比べ物にならないくらい、交流を深めることができた。阪大の生徒とは、夕食を同じ席で食べたり、一緒にカジノを見たりする中で徐々に距離を詰めることができた。

第5部 <地域活性化・クルーズ振興>

(1) 地域活性化のためのクルーズ客船誘致と港湾の役割(港湾関係者の発表や船内での関係者との議論を踏まえて)についての感想(国・自治体政策のあり方など)

1. 一度に大量の人間がクルーズから降りて観光をするため、観光地の体制強化に相当な労力がかかっていると思います。滞在時間は長くないため、強化する地域を絞ってそこに人が流れるように誘導することが重要なのではないかと思います。クルーズで寄港した観光客によるルール違反や迷惑行為が問題になっている地域もあると聞くので、まずは地域住民の理解を得て受け入れに向けて準備を徹底する必要を感じました。
2. 各地方自治体がそれぞれの思惑で誘致活動を行う分散型と国が特定港湾に資本を投入する重点型とどちらがより良いのだろうかと考えるに至った。多くの異なった観光資源をアピールするうえでは地方ごとに動くことが功を成すであろうが、港湾整備などを含むクルーズ誘致に伴う費用を小規模の地方自治体が担うのは荷が重いということが垣間見れた。
3. スマートクルーズアカデミーでは毎回、近隣自治体との連携の必要性とその課題について話が出ている。今回も、自治体職員として地元の利益を第一に考えなければいけないこと、現時点で誘致がうまくいっている自治体に他の自治体と連携するインセンティブがないことなど、連携が進まない理由が様々挙げられたが、誘致はもちろん、クルーズの大型化に対応して港の整備を進めていくに当たり、すべての港がばらばらに同じように進めていくのは、あまり良いとは言えない。日本全体で見てもより多くの効果をもたらす(地域活性化の効果をより大きくする)ためにはやはり自治体間の連携が必要である。しかし、各自治体は前述のようなジレンマを抱えており各自治体に委ねているだけではうまくいかないため、国が担う役割は大きいと感じた。例えば、補助金の要件に近隣自治体との連携を加えることなどして方向性を示すことが考えられる。
4. 自治体の方々が考える「各港の連携」と「選択と集中」の考え方には疑問を感じる。それぞれの港がそれぞれにクルーズを呼ぼうとするライバル関係にある中で、連携連携というだけで、どのように連携するか具体的なプランを聞けな



かったのは残念である。次に「選択と集中」に関して、税金を使っている以上、自分の港にクルーズを呼ぼうとしないわけにはいかないという意見があったが、近くの港に来たクルーズ客を自身の街に呼ぶなど港の整備だけでなく、他にもやり方はいろいろあるのではないかと感じた。

5. 今回感じたクルーズの魅力の一つに、普段の旅行では行かない都市に行けるといいう点がある。国内からのアクセスが悪い都市（宮崎や鳥取）でも、クルーズの寄港地に組み込めば、港からのアクセス次第で簡単に訪れることができる。そういう都市ほどクルーズ誘致に力を注ぐべきであるし、そのときには港から観光地への交通の整備が不可欠である。また、港の施設が充実していなくても、お見送り等で人を使うことで、港の魅力は増すので、対外的な宣伝と同様に、自治体内への宣伝も精力的に行うべきである。
6. クルーズの大きな役割としては、多くの人を運んできてくれるということだと思う。そのための窓口として港湾は必須であると思う。ただ、難しいのはクルーズ滞在時間でどこまで地域の魅力を知ることができるか、という点であると思う。クルーズ来船が増えた昨今、それを具体的にどう活性化につなげていくかが今後の大きなテーマになるのではないと思う。
7. クルーズの誘致に関して、豪華客船の港湾への寄港は、たくさんの方の人気の観光スポットが日中だけで回れるような距離にないと難しいのではと感じていた。しかし、港湾の近くにそのようなスポットが1,2個あるだけで十分であるのではと感じた。境港を例にとると、港近くに目立った大きな観光スポットは存在しない。しかし、水木しげるのゲゲゲの鬼太郎のお祭りが寄港に際して開かれているだけで、その日中を過ごすことができる。地域の有名なものや特性を生かしてイベントを一つ開催するだけでも、クルーズの性質ゆえ客は寄港の日中のみを楽しむことができる。地域活性化に苦しむ地域でも港湾さえ整備し、地域の目玉となるものを生かして、クルーズ用のアトラクションを作ってしまうとクルーズ誘致は地域にとって経済活性化の有力な手段となりうるのではと思う。
8. コスト対便益を考慮した投資・近隣港とのすみわけを考慮していくことが大切ではないか。客船が過多の先進自治体は繁忙期だけのために埠頭を増設するよりは近隣港を臨時に使用しての観光連携を、他方後進自治体は過度に期待して投資をし過ぎたりしないほうが良いと感じる。また、赤井先生が指摘されたように、客船来航数と予算規模の関係をモデル化して戦略を立てていくことも必



要だろう。

9. ある市の人が「自分は市に雇われているので自分の市の利益を優先せざるを得ない」と言っていたのが印象的だった。
10. クルーズの魅力は「自分では行かないような寄港地に行くことができ、その土地の魅力を知れること」だと思っています。地元の方が何も無いと思っけていても、その土地の方のおもてなしや、おいしい食べ物、きれいな景色などの魅力はあると思うので、その魅力をうまく伝えることが大事だと思いました。また、各港のクルーズ船の寄港回数を見ると、博多や横浜などがずば抜けて多いので、それに負けないように地方にある港にもクルーズ船が寄港し、その地域が活性化していけばいいなと思いました。
11. もう少し、各寄港の均衡化を図るべきだと思った。それぞれの特色を活かしつつ、ある程度のレベル(港の整備など)を均衡化することによって、どの港でも安定した誘致ができると思う。
12. クルーズで訪れる地域は今まで訪れたことがない場所も多くありました。また、陸路では行きにくく観光客の足が伸びない場所でも、クルーズ船に乗って海から行きやすい場所ならば、クルーズ船を多く誘致する事で、観光客数を伸ばす事が出来ます。港に近い地域は、積極的にその地域の良さをアピールして、クルーズの乗船客に魅力を伝え、楽しんでもらえる絶好の機会だと思います。魅力がきちんと伝われば、その後、多少遠くても陸路からも来てもらえたり、また船で来てくれるお客さんも増えると思います。
13. 港だけが栄えることは難しく、周辺地域のアクセスの良さや、観光としての魅力などもセットになって、港も周辺地域も活性化していくと思います。そのためには、地域の人や、企業の協力がとても大切になり、とても複雑な問題を各港が抱えていることを学びました。
14. クルーズ活性化会議プレゼン・パネル討論であった話の中に「『おもてなしの充実』が今後の課題である」という言葉があり、その言葉の通り海外のお客様はもちろんのこと国内のお客様に対してもおもてなしの気持ちを込めて歓迎することが一番大切なことであると考えます。
15. クルーズ人口が、中国などのアジア圏で大幅に増えていることから、より地域活性化のための大きな柱として、クルーズ誘致に力を入れるべきだと考える。しかし、難点として、知名度の低さと、富裕層のイメージが、非常に強いと思



われるため、国や自治体はその点を解消するための政策を早急に取り組むべきだと考える。

(2) クルーズの社会的意義とクルーズ振興の在り方(ニーズの掘り起こしにむけての若い世代からの視点)

1. クルーズは観光振興の手段として大きな意義を持つと思います。でもまだまだクルーズ=高級な旅というイメージが一般的で、とっつきにくいと感じる人が多いのが現状です。クルーズのツアーの広告の多くは寄港地を中心に情報を掲載しています。特に国内なら、わざわざ船で行かなくても…と感じる人が多いかもしれません。若者にクルーズ旅行をしてもらうには、船内でのアクティビティやフォーマルナイト・観劇等の非日常的でちょっと贅沢な船の中身を前面に出して宣伝する方がいいと思います。
2. 若者がクルーズに抱く第一印象は高価である、ということだと思ふ。より若者を引き付けるためには、ホテル宿泊気分で移動できることなど、クルーズの費用対効果を分かりやすく伝えていくべきだ。
3. 今までのクルーズの寄港地の中には、これまで旅行先として考えたことがなかったが、訪れてみるととても楽しめたところがいくつもあった。また、そのうちのいくつかにはまた改めて旅行に行ってみたいと思っている。今まで観光客があまり訪れていなかった地域にも大量の観光客を運んでこられること、直接目で見てその町の魅力を知ってもらいリピーターを増やすことができるという点で、クルーズ客船誘致が地域活性化に与える影響はとても大きいと感じた。旅行の目的はあくまで旅行地での観光であり、交通手段はその付随的なものとするのが今の旅行の定番のスタイルであるが、観光はもちろん、交通手段でさえも旅行の目的となっているクルーズ旅行という新しいスタイルを定着させていくことが、クルーズ人口拡大にむけて必要である。旅行地を決めてから交通手段を考えるとというスタイルのままでは、その交通手段としてクルーズ船が選択肢にあがることはほとんどないと思われるからである。このスタイルを浸透させていくためには、クルーズ客船内でどのような体験ができ、いかにそれが旅行の目的となりうるのか知ってもらうこと、高価で自分には手の届かないものという先入観を取り払うことが重要だと感じた。
4. クルーズは全世代的な旅行形態のひとつである(となるべきである)。そのためには、一見料金的に他の旅行形態よりも高くみえても、移動時間を節約でき、



効率的に都市を観光することができる利点があることを、積極的にPRしていくべきである。また各港もクルーズ旅行をするインセンティブになればよいと思う。観光であり訪れることのない港であるが、港の価値をより高め、あの港に寄れるから、このクルーズに乗ろうなどのあり方があってもいいと思う。

5. クルーズが持つ高級で非日常な空間を失うことなく、リーズナブルで若者にも手が届く存在であるということを知らしめる必要がある。飛行機や新幹線と違い、移動中こそ楽しめるのがクルーズの魅力であり、一度乗ってしまえば必ず繰り返し乗りたくなるので、まずはその一度目をどのように体験させるかがポイントだと思う。大学生協の旅行パンフレットの棚に学生クルーズのチラシを置く等で、まずクルーズという選択肢を増やさなければならない。

6. 特に国内クルーズの意義としては、普通の旅行ではいきそうにないところに行ける点が大きいと思う。今回の船に乗っていた自治体の中でも、それほど観光客の多いとは言い難いところも一部あったものの、そういった地域の魅力を発掘し伝えられるのがクルーズのメリットだと思う。クルーズの大きな障害が時間的なものだと思うので、今後は鉄道・航空などと連携をとりながら様々な世代を取り込んでいく必要があると思う。

7. 移動とホテルの要素を併せ持つクルーズは、観光スポットを短いスパンで多く回りたい人に向いていると思う。若い世代にとっては、大学生の卒業旅行など金銭的には少し余裕があつて、豪華な旅がしたい者にとってはうってつけなのではないかと思う。しかし、クルーズと言うと高価で手が出しにくい



というイメージがあるので、クルーズの楽しさ、豪華さ、移動の効率性などをまず認知させることが重要ではないかと思う。私に関して言えばクルーズには過去に参加したことがなく同級生から今回のクルーズを教えてもらわなければ、当分の間クルーズというものを知らずに過ごしていた。しかし、今回の旅を通して、クルーズの良さを存分に知ることができたので、また利用したいと思っている。今回割引もあり、格安で楽しめたことも要素としてはあるが、それを差し引いても、アミューズメントや食事、移動の効率性などを考えるとあまりあるものがあると思う。ニーズを掘り起こすという意味で、大学生に向けた割引などを設けて、少し高価なイメージのあるクルーズに手を出しやすくし、リピーターを作っていくことが先決であると思う。

8. 寄港地での消費に加え、目に見えない効果として「活気」や「賑わい」による住民の幸福度への影響はあるのではないかと（寄港数が中程度までの都市）。長

期間の旅行を要するイメージのあるクルーズ船では休暇取得がやはりネックになると感じる。日本の休暇は祝日を挟んだ三連休が多いので、二泊三日くらいで新幹線移動圏内（東海道山陽の東名阪福岡、東北新幹線の仙台青森）を移動する新幹線＋クルーズでの企画を出してみてもどうか。

9. コスタのような低価格なクルーズはお金のない学生にとって。様々な場所に行ける良い機会だと思う。学生向けの卒業旅行プランなどがあつたら良いのになあと思った。また、今回のクルーズで一般の乗客の方と話す機会があつたが、「本当は1週間のプランで行きたかつたがどうしても休みが取れなかつた」という話を聞いて、就職した後もう一度乗れるのかなあとし少し不安になった。

10. 前回(第9期プリンセスクルーズ)のクルーズで、若い人がクルーズに参加しない理由は「時間」と「お金」がないためなので、短期間のクルーズの促進をする提案をしました。しかし、実際に今回3泊4日の短期のクルーズを体験してみて、前回の7泊8日に比べるとあまり満喫できなかつた気がします。前回は4日を過ぎたく



らいから楽しさのピークだったのですが、今回はピークに達しないまま終わってしまった感じがします（それでも十分楽しかったです！）。なので、短期間のクルーズを促進するよりも、若い人でもまとまった長期間の休みが取れるような働き方に変える必要があると思いました。また、大学生の間などまとまった時間が取れるうちに、アカデミーのようにクルーズに乗るきっかけがあれば、多くの人がある魅力に気付くのではないかなと思いました。

11. クルーズは寄港した土地でも船内でもいつでも楽しむことができるのが強みであると思う。ただ、富裕層が楽しむものと特に若い世代は思っておるので、まずリーズナブルでも船上で楽しむという選択肢をみんなに知ってもらうのが大事だと思う。
12. コスタのような低価格で且つ短いクルーズは、今までクルーズに参加した事のない人にとって、参加しやすいプランだと思いました。クルーズが振興する事で、地方活性化にもつながりますし、ストレスを抱えやすい現代人にとっては、全てから解放されてリラックスできる旅だと思います。日本人は特に仕事人間になりやすいと思いますが、クルーズを利用して、しっかり遊んで、船から降りてしっかり働くというような、オンオフを作るにはとっても良い旅行プランだと思います。（ほかの旅行でもいいですが、船が一番疲れのないのではないかと思います。毎日遊んでいれば、勝手に次の港に連れて行ってもらえるので。）


また、クルーズが振興し、みんながクルーズに乗りたいと思うようになり、クルーズに乗るために長期休暇を取る人が増えて、その結果長期休暇をとりづらい風潮が消えれば、クルーズは今までの常識を変えた革命的な旅行プランになると思います。私が生きている間に、長期休暇が取りやすい社会が来ればいいなと思います。

13. 若い世代は、クルーズを身近に感じるできないことが問題だと思います。クルーズの良さ（事故が少ないことや、様々な階級の船があること）をもっとたくさんの人に知ってもらうことが必要です。そのためにも、インターネットやSNSを通して、認知を広めていくことが必要だと考えます。
14. クルーズという現実世界から離れている空間で生活することはめったに経験できないことであるため、そのめったにない貴重な時間の中でクルーズでしか経験できないことをするということにクルーズの存在価値があると考えます。その為、現代の時間に縛られた忙しい現実世界を忘れてクルーズを通してリフレッシュできる場所にクルーズの社会的意義があると考えます。
15. 今回のアカデミーを通して、クルーズの社会的意義とは、人々が様々な地域の魅力を知るための機会であると考えます。というのも、クルーズであれば、普通の旅行ではありえないような移動の仕方が可能になり、その移動が乗客の負担にならないことが大きな要因だと考えます。そして、クルーズがより活性化するためにはやはり、知名度と固定概念の払拭が最重要課題だと考えます。個人の案としては、自治体、および国のクルーズ機関が、メディア機関とのコネクトをつくることで、テレビ番組などで放送してもらえば、その効果は、チラシや雑誌などとは比べ物にならないと考えます。



(3) クルーズ全般への感想：将来に向けての感想、上記の項目に該当しなかった部分への感想など

1. 終日航海日がなかったため、船内アクティビティを十分に満喫できなかったことと、ショーを一晩しか見られなかったことが残念でした。クルーズはどんな年代でも楽しむことができるので、将来様々なライフステージで、様々な人と乗ることができたらいいなと思います。
2. 全てのエンターテインメントショーを見に行けなかったことが後悔として残る。船上での時間をいかに有効活用できるのかということも、もしもう一度機会があり、クルーズにでることがあれば考えて行動したい。

3. 初めてクルーズを体験するまでは、学生の自分には手の届かないとても高価なものだと思っていたが、思ったよりも手軽にクルーズに参加できることがわかった。同時に、たくさんの寄港地を少しずつ楽しむことができること、移動している間も船内で充実した時間を送ることができることなど、クルーズならではの旅行の楽しみ方を知り、これからもクルーズ客船に乗りたいと思うようになった。これは、スマートクルーズアカデミーに参加したことで気付けたことだったので、このような貴重な機会を頂けたことをとてもありがたく思っている。
 4. 今回のクルーズは前回のクルーズよりもとても楽しく、有意義であった。それは、他大学・自治体の方との深い交流が図れたからに思う。将来、自分が働く会社でもこのクルーズなどをビジネス的に精査し、投資ができればよいと思う。
 5. クルーズはセレブの楽しみという偏見がなくなり、学生でも十二分に楽しめる旅行手段であることが分かった。寄港地では普通の旅行のように気軽に楽しみ、船内では高級感や非日常間を味わうことができ、24時間楽しい旅行だった。失敗としては、船内のイベントやアクティビティに対して常に受け身だったため、自分からもっと積極的に乗務員と話したり、イベントに参加したりすればよかったと思った。しかしあのノリは日本人には少きついても思った。既に家族や友人に、クルーズがいかに楽しいかをたくさん語り、羨望の眼差しで見られているので、是非彼らを誘ってまたクルーズに乗りたい。
- 
6. クルーズ全般としてはやはり楽しめた部分が多い。ただ、個人的に気になった点としては例えばクレジットの登録のやり方や、下船前の清算の存在など今までの船がなく、戸惑う部分が多かった。クルーズ文化はまだ日本では馴染みがない部分も多いので、クルーズ会社同士で連携できる部分はしてほしいと思った。
 7. 赤井ゼミ生ではなかったが、今回クルーズアカデミーに参加させていただいて感謝している。そもそもクルーズに乗ったことがなかったので、クルーズ旅行がどのようなものか雰囲気を知ることができ、また、クルーズ誘致のために自治体の方がご尽力されているということを知ることができた。地域の経済活性化という面でもクルーズが有効な一手になるであろうことを頭の中に入れることができ、さらに日本全体のクルーズ市場や自治体担当者が誘致のために具体的にどのような課題に直面しているのかを学ぶことができ、日本におけるクル

ーズの現状を概観することができた。乗客としても、クルーズを堪能することができた。クルーズにあるアミューズメントやレストラン、ダンスなどクルーズの魅力を実際に味わうことができた。今後、旅行に行く時はクルーズも旅行の方法として選択肢に入ったし、その魅力を友人等に伝えていければなど感じている。

8. 事前に感想用紙を配布しておくのと記入事項をチェックしながら乗船できるので効果的ではないか。
9. 今回は2回目ということで荷物の準備はきちんとできたと思うが、もっと寄港地について調べるべきだった。高校生の頃にドイツ船を見送ったが、まさか自分が大学生のうちに2回もクルーズに乗ることができるとは思わなかった。このような機会を作っていただいた赤井先生や倉本先生、コスタクルーズの関係者の方に感謝を伝えたい。

10. 2回目のクルーズで、前回とは違う船、メンバーで楽しむことができました。船の中でご飯を食べたり、ダンスをして楽しんで、寝ている間に次の寄港地に着き、その土地を観光ができるクルーズは、やはり魅力的だと思います。来年には、地元の山形にも初めてクルーズ船が寄港す



- るので、これをきっかけにクルーズにも力を入れ、クルーズの魅力を地元の人にも知ってもらえたらいいと思います。ほかのクルーズ船がまだ寄港したことのない地方の港にもクルーズ船が寄港するようになり、地域の活性化に繋がってほしいです。今回もありがとうございました！
11. この4日間は、私の中のクルージングというイメージをいい意味で変えることができたと思う。将来、自分が旅行や娯楽を計画する時には、クルーズもぜひ選択肢の一つにいれたい。
12. いろんな船に乗ると、それぞれの会社の特徴や船の特徴が見えて、とても楽しかったです。コスタだから体験出来たこともある一方、コスタよりほかの船が良かった点の気づきもありました。これから、社会人になると、なかなかクルーズに乗れるような機会はないかと思いますが、是非また乗りたいなと思いますし、両親が退職した際には、招待してあげたいなと思いました。
13. クルーズ、パーティー、全てが初めてで、とても充実した時間を過ごすことができました。ただ楽しむだけではなく、自治体の方や阪大生との交流したことで、勉強になったこともたくさんありました。今まではクルーズは身近な存在ではありませんでした。ですが今回、クルーズの魅力を存分に感じる事ができ

たので、これからは自分でクルーズに乗る機会を作っていきたいと思っています。

14. 失敗談というところで述べると最初緊張や恥じらいの気持ちの方が楽しいという気持ちより勝っていて最初から思いっきり楽しめなかったというところに少しの後悔が残っている。また次回クルーズを経験する機会があれば乗船した初日から現実世界を忘れて悔いのないように楽しむべきだと考えている。
15. 今回は、寄港地の魅力を存分に味わえたこと、阪大並びに自治体の方々により交流できたことが満足な点である。しかしこれは、クルーズという一つ同じ船の中で過ごし、また一緒に寄港地の魅力を楽しんだからこそ生まれた心の繋がりと考えている。大きい失敗談としては、遊びや交流に重きを置きすぎて、パネルディスカッション等の勉強の機会に万全の態勢で臨めなかったことがあげられ、悔しい思いでいっぱいである。この旅で、より明白にクルーズの魅力に気づくことができたため、将来もっとクルーズの旅を味わいたいと、思っている。

